

# HOSEI

Communication Magazine

10  
2021

# 2020年度の 研究・教育活動に対する 受賞・表彰者の紹介



本学では2015年度から「研究・教育活動に対する受賞・表彰祝賀会」として、学会などで受賞し、表彰された教員の方々に祝賀の場を設けています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、祝賀の場を現時点では見合わせております。ここでは、2020年度に受賞・表彰された方々と受賞内容をご紹介します。

## 2020年度受賞・表彰を受けられた方々へ

法政大学総長  
廣瀬 克哉  
Hirose Katsuya



皆様、この度の受賞・表彰おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

2020年度も、本学に所属する多数の研究者が賞を受け、表彰されました。テーマ、分野は多岐にわたり、また受賞機会としても、長年の研究活動に対する学会からの顕彰や、学会主催のコンテストでの受賞、地域性のある研究成果に対する地方公共団体からの表彰、創作された作品の受賞、研究成果の社会実装への評価、学生を交えたゼミ・研究室の活動成果の受賞など多様です。多数の学部、研究科、研究所を擁する本学で展開されている研究活動の幅広さを象徴するものとなっています。そして、教育、研究、社会貢献に関する本学のミッションを体現する活動の一端がここには示されています。

総合大学という組織は、さまざまな分野の教育研究が繰り広げられ、幅広い社会との接点の中で、その活動が多様な成果を生んでいく場です。それを全学で共有するための場として、年に一度、一堂に会して受賞・表彰を祝賀する場を設けてきました。残念ながら、昨年からはコロナ禍のために対面の場に来る機会をもつことができず、誌面を通しての共有というかたちが続いていますが、普段はそれぞれの部局、分野で展開されているさまざまな活動を俯瞰し、法政大学という場の「豊かさ」を実感できる機会となればと思います。今後のそれぞれの活動展開への刺激となれば幸いです。

受賞・表彰者の皆様の、今後のさらなるご活躍を期待しております。

# HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。

## 9月卒業学位記交付式



廣瀬克哉総長は、新型コロナと戦った1年半を振り返りつつ「学生生活の中でやり残したことのうち、自分自身にとって大事なものをいくつか必ず手にしてください」と述べ、卒業生を激励した

9月11日(土)、市ヶ谷キャンパスの外濠校舎薩埵ホールで、午前10時から2021年9月卒業学位記交付式が行われ、学部・大学院合わせて208人が本学から旅立ちました。同日午後には、全ての授業を英語で行う英語学位プログラムの新入生を対象とした2021年秋季入学式が行われました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、式典は規模を縮小して開催され、式典の様子はオンラインでライブ配信されました。

学位記を受け取った学部卒業生代表のVICTORIA Bernadetteさん(グローバル教養学部/左)と学位記を授与した新谷優グローバル教養学部長(右) (\*写真撮影時のみマスクを外しています)



学位記を受け取る大学院修士課程修了生代表の大西絵里子さん(政治学研究科) (\*写真撮影時のみマスクを外しています)



笑顔あふれる卒業生たち (\*写真撮影時のみマスクを外しています)



式典の様子はオンラインでライブ配信された



日本語と英語で司会を務めた古賀ひかるさん(社会学部4年)

## 秋季入学式



廣瀬総長は英語による式辞で「コロナ禍という制約の下、力を得るにはどうしたらよいか。まさに自由を生き抜く実践知が求められる中での学生生活が始まろうとしています」と新入生を歓迎



歓迎の辞をスピーチした在学生代表のHENG Xinyiさん(グローバル教養学部)(左)と入学の辞をスピーチした向理さん(理工学研究科)(右)



日本語と英語で司会を務めた平野康太郎さん(社会学部4年)

# 2021年9月卒業学位記交付式 秋季入学式

## HOSEI 10 Contents

communication magazine 2021

- 02 HOSEI EYE 2021年9月卒業学位記交付式/秋季入学式
- 03 2020年度の研究・教育活動に対する受賞・表彰者の紹介

- 12 卒業生インタビュー  
「物事の良い面に目を向け、自分らしく前進していきたい」  
editwise 代表、東京2020オリンピック(セーリング)・パラリンピック(パワーリフティング) 競技大会 ベンチャーメディアマネジャー 西 朝子さん

- 14 ESSAY  
「労働経済と40年、顧みれば」  
経営学部経営学科 教授 奥西 好夫

- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.39  
「誰も取り残されない社会をどのように構築するか考える」  
人間環境学部人間環境学科 准教授 佐伯 英子

- 18 MY CAMPUS, MY LIFE  
経済学部現代ビジネス学科 杉浦末樹教授ゼミ/手話サークル「ちゅらたま」

- 20 Message 「コロナ禍で生きる、理系の力」  
理工学部応用情報工学科4年 小金井企画実行委員会委員長 菅原 太樹さん

- 21 THE SCENE VOL.131 ヨット部
- 22 後援会だより 「2021年度支部総会・父母懇談会総括」ほか
- 26 HOSEI ミュージアム VOL.021  
「ミュージアム・サテライト小金井竣工記念 法政理工系のあゆみ(前編) ~度重なる校舎移転のなかで発展~」
- 27 校友会だより
- 28 HOSEI TOPICS
- 30 2020年度自由を生き抜く実践知大賞 5
- 31 BOOKS

COVER 市ヶ谷キャンパス 撮影:平野太呂

建替工事前の市ヶ谷キャンパスには築山を有した日本庭園があり、建設当時の総長(大内兵衛)の名前にちなんで「大内山庭園」と呼ばれていました。工事に伴い解体された後、今では中央広場と一体化した場所に、新たな大内山庭園が誕生しています。隣接する新校舎は、公募で思い出の名前を受け継ぎ「大内山校舎」と名づけられました。



国際文化学部 国際文化学科

重定 如彦 教授

Shigesada Yukihiro

第9回情報処理学会国際人工知能プログラミング  
コンテスト:SamurAI Coding 2020-21【準優勝】/  
情報処理学会

SamurAI Dig Here 2020 ゲーム (オンライン対戦)

2012年度から情報処理学会が開催している「SamurAI Coding」は、将来第一線の研究者や開発者になり得る、世界市場を舞台に活躍できる人材を育てることを目的として、ゲームをテーマにしたプログラミングスキルを競う国際 AI (人工知能) プログラミングコンテストです。

2020年度の「SamurAI Coding 2020-21」で題材とされたのは「はなさかじいさん」をモチーフとした不完全情報ゲームで、二つのAIがそれぞれ侍と犬を操作し、正方形のマスで区切られた将棋盤のようなフィールドに埋まっている埋蔵金をより多く掘り当てていくことを目的としていました。

私のプログラムでは、相手を邪魔する役割を果たす犬のAIは、1手先までの行動の中から相手が埋蔵金を掘り出す期待値が最も小さくなるような動作を選択し、自身の侍のAIは、5手先までの行動で埋蔵金を掘り当てて期待値が最も高い動作を選択する手法を取りました。決勝では、周囲に穴が多い複雑な地形では状況を正しく評価できないという弱点により敗北したものの、ほぼ思惑通りの試合運びができました。残念ながら、今後のSamurAI Coding は休止するそうですが、同様の機会があれば参加して、自身の技術力を高めていきたいと思っています。

人間環境学部  
人間環境学科

竹原 正篤

特任・任期付准教授  
Takehara Masaatsu人間環境学部  
人間環境学科

長谷川 直哉 教授

Hasegawa Naoya

第5回優秀論文賞／人間環境学研究会

論文「A case study of sustainability management: Teigo Iba, a pioneer of management aimed at creating shared value (CSV)」

SDGsに代表されるサステナビリティ社会の実現を目指す現代社会において、企業は経済的価値のみならず、社会課題の解決という社会的価値の創出を求められています。

このような取り組みは、すでに明治期の先見性のある企業経営者によって実施されていました。本論文では、その一人である伊庭貞剛(第二代住友総理事)に着目し、サステナビリティ社会の実現を先取りした伊庭の理念と行動を英語で著しました。

明治20年代半ば、伊庭貞剛は、住友が経営する別子銅山の操業によって生じた煙害問題を解決するため、改革の陣頭指揮をとりました。社内外からの批判や圧力に直面しながらも製錬所の移転を決断、大規模な植林活動を通じて自然環境の再生を図り、長期的な展望をもって煙害問題の根本解決の道筋をつけたのです。こうした伊庭の行動は、企業の社会的責任(CSR)、共通価値の創造(Creating Shared Value:CSV)という点において、現代企業に求められている概念と共通します。

本論文の学術的な意義として、明治期の日本企業の中にサステナビリティ経営を実践した企業家が存在していたことを明らかにした点と、取り上げた企業家の取り組みが現代企業に貴重な示唆を与える内容であった点が評価されたと考えています。



経営学部 経営学科

長岡 健 教授

Nagaoka Takeru

第2020PCカンファレンス最優秀論文賞/  
コンピュータ利用教育学会

論文「対話型大規模講義のオンライン化－受講生／教員間インタラクションに関する考察－」

学生の考える力をいかに醸成するかは、大学教育における重要なテーマです。研究対象の授業では、「考えながら聞く、聞きながら考える」ことを意識付け、対話を生成するツールとしてTwitterを採用し、学生が主体的に考えながら対話を主導することを目指してきました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、ビデオ会議ツールZoomを使ったオンライン授業を実施。2019年度(対面授業)と2020年度(オンライン授業)の状況を比較分析してみると、オンライン授業では、Twitterへの書き込み数が大幅に増加していました。ここから積極的な書き込みを通じて、「考える力の醸成」に主体的に取り組んでいた受講生の姿を読み取ることができます。情報のインプットを意識した授業態度が変化し、受講生が「考えながら聞く、聞きながら考える」ことを実践しつつあることを示していると言えるでしょう。今後は、学習空間・メディアの変化や、社会環境の変化を踏まえつつ、受講生と教員のコミュニケーションという視点から考察をさらに進めていくことが必要だと考えています。

そして、こうした研究が素晴らしい賞を受賞できたのは、授業に参加してくれた学生たちの「学び」が評価されたのだと思います。



経営学部 市場経営学科

田路 則子 教授

Taji Noriko

①第36回電気通信普及財団賞【テレコム社会科学賞:奨励賞】/  
公益財団法人電気通信普及財団  
②2020年度中小企業研究奨励賞準賞/一般財団法人商工総合研究所

①②とも著書「起業プロセスと不確実性のマネジメント－首都圏とシリコンバレーのWebビジネスの成長要因－」

首都圏とアントレプレヌールシップの聖地とたたえられるシリコンバレーのスタートアップを7年間追跡した結果をまとめた受賞作では「2010年代のWebビジネスにおいては、日本は米国よりも成長性が低くはない」という発見で通説を覆しました。起業家の年齢は30代半ばであり、資金調達と成長の確率にも大差はありません。ただし、レーター段階の投資額は桁違いに少なく、結果として日本ではユニコーンの輩出が少ないことが説明できます。GAFA(Google, Amazon, Facebook, Apple)と比較しての日本企業の弱さは、製品サービスのハイテクレベルの低さに起因すると推論できます。成長したサンプルを取り上げて、「起業家は仕事の経験やネットワークを活かして機会を認識し、不確実性の高い状況下において、曖昧さを抱き込み、予期せぬ事象を逆手に取るような意思決定を行っている」と、起業機会の認識と意思決定を解き明かしました。

電気通信普及財団賞では、本書の内容は「Webビジネスについて定量的に起業の『真実』」に迫っており、日米の起業事例についてフィールド調査を行い、不確実性への対処方法を示している。Webビジネス以外の起業にも本書はアイデアを提供するものであり、示唆に富む著書」と評されました。



社会学部 社会学科

武田 俊輔 教授

Takeda Shunsuke

第46回藤田賞/  
公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所

著書「コモンズとしての都市祭礼:長浜曳山祭の都市社会学」

本書は、滋賀県長浜市の長浜曳山祭という都市祭礼を手がかりに、城下町・商家町として近世以来の地縁組織である「町内」を継承してきた地方都市の社会構造を明らかにしています。前半では祭礼を、「家」や「町内」の威信、興味、観光資源や文化財としての価値といった用益をもたらす仕組み(=コモンズ)と見なし、そこから都市の世帯を越えた伝統的な社会関係を描き出しています。本書の後半では、祭礼の継承のために「町内」同士が協力し、自営業者間の結びつきを活用し、観光資源や文化財としての用益を配分しつつ、経済団体や行政、学校と連携する中で築いていった関係性を描いています。このように「町内」を中心としたさまざまな社会関係が構築されていくプロセスを分析することで、戦後日本の地方都市の社会構造を明らかにしています。

第46回藤田賞の選考委員からは、伝統的都市が蓄積された伝統や社会関係を活かしながら再生産を進める過程に迫る現代的意義を持つ作品として本書を高く評価いただきました。社会学のみならず広く社会自治や都市問題全般の研究者から評価されたことを嬉しく思います。



社会学部 メディア社会学科

橋爪 絢子 専任講師

Hashizume Ayako

2020年日本感性工学会出版賞/日本感性工学会

著書「Cuteness Engineering: Designing Adorable Products and Services」(放送大学 黒須正明名誉教授との共著)

本書は、感性工学において重要な概念の一つとされる「かわいい」という概念について、英語圏での「Cuteness」、日本語での「Kawaii」、中国語での「kè'ài」、それぞれの概念を比較しながら、「かわいい」という概念の実体に迫ろうとしたものです。

Kawaii Engineeringが工学的実践領域であるのに対し、本書のCuteness Engineeringは、その前段階の概念的考察を主体にしています。特に、日本のKawaiiについては、歴史的考察や社会学的考察を行った上で、サンリオの人気キャラクター「Hello Kitty」の三代目デザイナーである山口裕子氏にインタビューを行い、貴重な証言を得ています。米国では、「Mickey Mouse」に代表されるような類似の概念はあったものの、近年の日本文化の流入によって「かわいい」という概念が注目され、流行するに至ったという経緯がうかがえ、中国においても同様の経緯があります。

そうした意味で、受賞作は、感性工学に類する感性デザイン論としても、比較文化論としても重要な価値を持っていると評価され、受賞に至りました。



文学部 史学科

小口 雅史 教授

Oguchi Masashi

令和2年度青森県文化賞/青森県

業績「日本古代中世における北方史研究」,  
「青森県史の編さん事業」など

1985年に弘前大学人文社会学部に奉職をしたのを契機に、日本古代中世における北方史研究の開拓に取り組んできました。文献史学による古代中世北方史研究は手薄で、それは「蝦夷」記事が存在する秋田から岩手県南部までの歴史(いわゆる北緯40度以南の世界)に過ぎませんでした。しかし北緯40度以北は、むしろ独自の輝いた世界で、日本文化の多様性を保証する(単一族論を明確に打破する)重要なフィールドでした。

1996年に法政大学に着任した後も北方史研究に従事し、その成果を広く世に還元するために、多くの自治体史編さんを主導しました。特に全36巻となる青森県史は20年以上の歳月をかけて完成させ、今もそのデジタル公開に関与しています。弘前市史、五所川原市史、浪岡町史、青森市史といった県内各地の自治体史も刊行。これが直接の受賞理由となりました。

北日本中世史の解明につながる重要な素材となった津軽安藤氏研究、北緯40度以北にのみ存在する古代防衛性集落の研究など、さまざまな研究蓄積も評価いただきました。遺跡の形態分析のために用いた航空レーザ計測方法の有効性も実証できました。これまで日の当たらなかった北方古代中世史に新しい光を当てたことを評価していただき、うれしく思っています。



文学部 心理学科

渡辺 弥生 教授

Watanabe Yayoi

STOP 感染症大賞【優秀賞】/  
一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会

新型コロナウイルス対策を学べる子ども向け動画  
「健康戦士コロタイジャー」

静岡大学や公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)の有志とともに、戦隊ヒーローが悪役「コロナー」を退治するというストーリー形式の動画を作成。子どもたちに新型コロナウイルス感染症の予防に必要なソーシャルスキルや健康スキルを分かりやすく伝えることを目的としています。動画は、「公衆衛生(えいせいレッド編)」「いじめ予防(おもいやりピンク編)」「ストレスマネジメント(めんえきホワイト編)」「メタ認知(メタにんちイエロー編)」などをテーマに複数作成され、専用サイトで紹介されています。

動画制作には教育や心理学の専門家が制作に携わり、私は主にシナリオや外国語への翻訳コーディネートを担当しています。クイズのような問いかけを盛り込みながらストーリーが展開し、楽しみながら感染防止対策の正しい知識などを学べるように工夫しています。完成した動画は動画配信サイトで配信し、SNSを利用した双方向のコミュニケーションをとりながら周知に努めたことから、テレビの情報番組などでも紹介されました。今では、いろいろな学校の授業でも使用されています。微力ながら、教育的な貢献につながったのではないかと考えています。



デザイン工学部 建築学科

下吹越 武人 教授

Shimohigoshi Taketo

- ①グッドデザイン賞 2020 / 公益財団法人日本デザイン振興会
- ②2020年日本建築学会作品選奨 / 一般社団法人日本建築学会
- ③第46回東京建築賞【戸建住宅部門最優秀賞】 / 一般社団法人東京都建築士事務所協会

①ホテル・店舗（複合商業施設）ルネ麻布十番ビル ②③ K2 house

人を惹き付ける空間構成と心地良い環境形成を統合した建築を街に開いて連関させることで、生き生きとした都市空間をつくれるのではないかという構想の下、フィールドワークや建築設計の実践を通して、そうした優れた建築の在り方を追求しています。

基本設計とデザイン監修に関わった「ルネ麻布十番」は、東京中心部の商店街に建つ、インバウンドを中心とした中規模ホテルです。地元の憩いの場として親しまれた麻布十番温泉の跡地に建つだけに、街の顔を担う都市施設として、商店街の活力を支える街路空間の要素を継承・更新することに努めました。そうしたアプローチが評価につながり、今回の受賞となりました。

住宅「K2 house」は、住人の嗜好が集積する、濃密な私空間としての庭づくりを意識しました。庭は私空間にもかかわらず、街とつながり、庭の連なりが街並みをつくります。この地は三角形という特殊な敷地形状のため、中央に四角いボリュームを置き、周囲を三つの三角形（ニワ）で囲む構成となっています。選者からは「敢えて難しい敷地形状に挑戦することで、個性的で新鮮な住宅が生まれた意欲作」と評されています。

今後も、建築デザインを通して現代の建築研究をまい進したいと思っています。



デザイン工学部 建築学科

川久保 俊 教授

Kawakubo Shun

- ①第21回グリーン購入大賞【大賞・環境大臣賞】 / グリーン購入ネットワーク

業績「自治体のSDGsに関する取り組み／成功事例を検索、発信、共有する『ローカルSDGsプラットフォーム』の開発」

SDGsに取り組もうとしている自治体関係者の支援を目的として、「ローカルSDGsプラットフォーム」を開発し、運用しています。これはオンライン上の情報共有を可能にするプラットフォームで、自治体におけるSDGs達成に向けた取り組みや成功事例を検索できます。情報を登録して発信することも可能です。すでに全国の自治体（21都道府県、158市区町村）で利用されており、SDGsを反映した計画の策定や取組推進に貢献しています。

例えば、大阪府はローカルSDGsプラットフォームを用いた地域分析を実施し、その結果を「Osaka SDGsビジョン」の策定に

生かすことで、第3回「ジャパンSDGsアワード」内閣官房長官賞を受賞しました。こうした功績が認められ、環境に配慮したサービスの普及・拡大に貢献した取り組みやSDGsの目標達成に寄与する取り組みとして、グリーン購入ネットワークから表彰されました。



ローカルSDGsプラットフォーム



デザイン工学部 都市環境デザイン工学科

今井 龍一 教授

Imai Ryuichi

- ①文部科学大臣表彰【科学技術賞（科学技術振興部門）】 / 文部科学省
- ②令和2年度i-Construction大賞【優秀賞】 / 国土交通省

①業績「携帯電話基地局データから生成される人口流動統計の振興」  
②業績「建設機械搭載型レーザスキャナによる土工・舗装工事のリアルタイム出来形管理の実現」

①の携帯電話基地局データから生成される人口流動統計は、24時間365日、日本全域で取得できる国内最大規模の交通ビッグデータです。統計的な信頼性を有するデータとして、多くの地方公共団体や産業界の各社でまちづくり、交通計画、防災計画、地域創生やマーケティングなど広い分野で活用され、公共財としての供給・定着に寄与しています。関連する取り組みとして、人口分布統計を用いた人口変動分析があり、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言による人流の変化の分析などで活用されています。

②は前田道路株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社、中村健二教授（大阪経済大学）、塚田義典准教授（摂南大学）と共同受賞した業績です。道路舗装工事の管理の効率化を目的として、建設機械搭載型のレーザスキャナを開発しました。これにより、施工者は現場での舗装作業と同時に出来形となる点群データを計測し、解析処理した結果をリアルタイムに確認できます。また、ウェブブラウザを利用して、現地に行くことなく遠隔（リモート）で出来形の品質を確認することもできます。省力化や監督員との情報共有など、施工管理の高度化や生産性向上に寄与し、波及性が高い技術となっています。



デザイン工学部 建築学科

小堀 哲夫 教授

Kobori Tetsuo

- ①第15回日本ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）【特別賞】 / 公益財団法人日本ファシリティマネジメント協会
- ②SKY DESIGN AWARDS 2020 Shortlist / メルシーメディア社
- ③German Design Award 2021 winner / The German Design Council（ドイツデザイン評議会）
- ④第61回BCS（日本建設業連合会）賞 / 一般社団法人日本建設業連合会

①②③とも梅光学院大学「The Learning Station CROSSLIGHT」  
④ NICCA INNOVATION CENTER

梅光学院大学「The Learning Station CROSSLIGHT」は、大小さまざまな間仕切りのないセミオープンな空間が斜めに連なる、新しいスタイルの校舎です。廊下と教室の概念をなくすことで、人々との多様な交流を実現し、あらゆるところが学びの場となるようにデザインしています。また教員と職員が一体となって学生を育てる「教職協働」の観点から、1階は固定席がないフリーアドレスオフィスとなっています。こうしたコンセプトは高く評価され、日本ファシリティマネジメント大賞、SKY DESIGN AWARDS 2020 Shortlist、German Design Award 2021 winner など各賞を受賞しています。

また、化学品メーカーの新たな研究所である「NICCA INNOVATION CENTER」は、外周部にガラス張りの実験室やオフィスを配置し、中央に「コモン」と呼ばれるシームレスな共有空間を取り囲み、研究者と他者との刺激的な交流を生み出しています。特に1階のコモンは、積極的に社会や地域コミュニティと関わることでできるショールーム、イベントスペースとして、来訪者との多種多様な共創活動を図っています。「この研究所で働きたい」と新入社員の応募が増えるなど、施設そのものが社員に愛着をもって利用されていることも、BCS（日本建設業連合会）賞の評価につながっています。



デザイン工学部 建築学科

赤松 佳珠子 教授

Akamatsu Kazuko

- ①2020年日本建築学会作品選奨 / 一般社団法人日本建築学会
- ②第18回環境・設備デザイン賞【第Ⅲ部門（都市・ランドスケープデザイン部門）優秀賞】 / 一般社団法人建築設備総合協会
- ③第33回日経ニューオフィス賞【東北ニューオフィス推進賞】 / 一般社団法人ニューオフィス推進協会
- ④グッドデザイン賞 2020 / 公益財団法人日本デザイン振興会
- ⑤優秀建築選 2020 100選 / 公益社団法人日本建築家協会

①②渋谷ストリーム ③④⑤山元町役場（宮城県）

「渋谷ストリーム」は、渋谷という地が持つポテンシャルを未来へつなげることを目指して、居心地のよい場所であると同時に、街のあらゆる方向に向かって人々の流れをつくり出すハブとして機能させるように設計。その年の作品選集掲載作品から、特に優れた作品として「作品選奨」を受賞。さらに、「感性」「機能性」「経済性」「社会性」の四つの評価軸により、総合的かつ客観的に評価され「環境・設備デザイン賞」にも選ばれました。

さらに「山元町役場」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた庁舎の新築復旧を図り、「海と山をつなぎ、人と人をつなぐ要としてのタウンホール」というコンセプトを打ち出したプロジェクトで、創意と工夫を凝らしたオフィスを表彰する「日経ニューオフィス賞」と「グッドデザイン賞」を受賞。グッドデザイン賞の審査講評では「求心的なまちの要・復興のシンボルを目指して全方向にまちの風景とつながる『裏表のない庁舎』をデザインし、正面を持たない特徴的な外観と平面プランが導かれている点が興味深い」と評されています。



デザイン工学部 建築学科

宮田 雄二郎 准教授

Miyata Yujiro



デザイン工学部 建築学科

網野 祐昭 教授

Amino Yoshiaki

- ①グッドデザイン賞 2020 / 公益財団法人日本デザイン振興会

木質建材「BSボード」  
（株式会社長谷川萬治商店、株式会社長谷萬との共同受賞）

森林資源の活用に向けて、構造・意匠の両方に使用できる新しい木質素材「BSボード」を開発しました。「BSボード」は、板を並べて、穴をあけ、木ダボ（接合用の木軸）を差し込むという、シンプルな工程の積層材です。接着剤を使用しないため製造時や廃棄時の環境負荷が小さく、簡易な設備で製造できるので、中小製材所や工務店でも事業化が可能です。製品を構成する木材の断面形状を予め切削加工し、木ダボで接合する際の断面形状や配列によって、多彩な表面デザインが可能となります。丸太の皮が一部に残る「丸身」などのB級材もラフ感のある意匠材として活用するようにしました。あえて鋸目が残る仕上がりが、不揃いな色あいに、板材を配列するなど、構造材でありながら、意匠面の要望に応えやすい素材です。審査員からは、シンプルな製法で、木材の組み合わせ方により多様な表情を生み出せる点、B級材も意匠に転換できる点を評価されました。



現代福祉学部 臨床心理学科

丹羽 郁夫 教授

Niwa Ikuo

卒業生、人間社会研究科 臨床心理学専攻修了

小林 深吾

Kobayashi Shingo

- ①2019年度優秀論文賞 / 日本コミュニティ心理学会

論文「仮設住宅入居者の視点から災害ボランティアとの関係性の意味づけが変化するプロセスに関する質的研究：東日本大震災における長期的な心理社会的支援事例から」

受賞対象の論文は、本学修了生小林深吾さん（一般社団法人ピースポート災害支援センター）の修士論文をもとにしています。指導教員として、学会誌に掲載するための改編のサポートをしました。

本論文は、東日本大震災におけるボランティアの支援活動に焦点を当て、その有効性を被災者の視点から調査しています。12人の仮設住宅入居者を訪問し、インタビュー調査を行った結果、ボランティアが専門家でないからこそ、被災者の支援に有効に働いたと思われる点がいくつか明らかになりました。長期にわたり、定期的に訪れるボランティアの多くは、入居者の方とお茶を飲みながら世間話をするような関係を築いています。孤立を防ぎ、被災生活の長期化による二次的ストレスを緩和します。世間話として、被災体験を自発的に語ることは、トラウマの予防や軽減に役立ったとも考えられます。また、被災者は人生の経験者としてボランティアに助言することもありました。これにより、被災者は自分が他者を助ける力を持っていることに気づきます（エンパワーメント）。ボランティアを派遣する組織が過度に依存する関係にならないよう、ボランティア教育を行ったことも有効に働いたと考えられます。



キャリアデザイン学部 キャリアデザイン学科

熊谷 智博 教授

Kumagai Tomohiro

- ①第84回大会学術大会特別優秀発表賞 / 日本心理学会

発表「ボスニア・ヘルツェゴヴィナにおける民族及び共通内集団アイデンティティが政治的態度と過激化に与える効果」  
（サラエボ大学のAlmir Maljevic先生と共同で研究）

今回の研究では「共通内集団アイデンティティ」の影響に注目しました。共通内集団アイデンティティとは、それぞれ異なる集団に対して帰属意識を持つ人々を、何らかの共通するカテゴリーにおいて「内集団」として認知させることです。本研究ではそれがかつて対立していた集団間の和解を促進する過程において、民主主義の尊重と権威の正当性知覚にどのように影響を与えるか、実際に民族紛争があり、その後の国家再建過程の中で、民族集団間関係を政策的に調整する必要性に直面しているボスニア・ヘルツェゴヴィナにおいて検証しました。

ボスニア・ヘルツェゴヴィナの5都市（サラエボ、モスタル、バニャルカ、トウズラ、ゼニツァ）の住民250人を対象に調査してみると、多数派であるボシュニャク系住民は民主主義を尊重する態度を強めていましたが、少数派のクロアチア系とセルビア系住民は、むしろ民主主義を軽視する態度を強めていました。このことから、共通内集団アイデンティティを少数派に受容させるには、それにどのような物質的・象徴的利益があるのかをアピールする必要があると考えられます。紛争後の人々に対して、心理学はどのような貢献が出来るのかを考えつつ、「世界をほんの少しでもより良くするため」に今後も研究を続けていきます。



理工学部 経営システム工学科  
**木村 光宏** 教授  
 Kimura Mitsuhiko

Best paper award / The 9th Asia-Pacific International Symposium on Advanced Reliability and Maintenance Modeling (APARM 2020)  
 (先進的信頼性・保全性モデリングに関するアジア太平洋国際シンポジウム)

論文『Factor Copula Modeling of Coherent Systems with Dependent Components』  
 (神奈川大学の太田修平助教を筆頭著者とする、共著・共同受賞論文)

複数の機能的素子やコンポーネントなど(以下、素子)から構成されるシステムの信頼性評価の問題、つまり各素子がどの程度故障しないか、システム全体として稼働を続けることができるかといった確率的な評価問題は、古くから議論・解析されており、その評価技術は既に広く利用されてきています。

しかし、それらの評価法は、システムを構成する素子は、互いに独立して故障するという、強い仮定の下で構築されたものであるため、本来であれば、どのようなシステムにも適用するのは適切ではありません。一方で、素子間の独立性を緩和してしまふと、解析的な結果を得ることが非常に困難となるため、その打破を狙った研究が数多くなされてきました。

本研究では、ファクターコピュラと呼ばれるモデリングスキームを適用すると同時に、核となるコピュラとして数理的に扱いやすいFGM(Farlie-Gumbel-Morgenstern)コピュラを導入することを発案し、解析に成功しました。これにより素子間の従属性を考慮した新しい信頼性評価手法を提案することができました。

これらの成果は、例えば風力発電システムの重要部品の信頼性評価や設計の助けとなる可能性などがあると考えています。



生命科学部 環境応用化学科  
**北村 研太** 教務助手  
 Kitamura Kenta

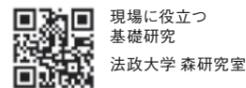
日本粉体工業技術協会奨励賞【研究奨励賞】/  
 一般社団法人日本粉体工業技術協会

発表『刺激応答性スラリーを用いた再利用可能なドロー溶液の開発』

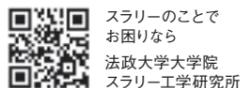
世界人口の約3分の1にあたる22億人は安全に管理された飲み水を利用できないため、低コストで飲料水を製造する技術の開発が望まれています。現在用いられている淡水製造方法の一つが海水の淡水化で、近年注目が集まっている技術が、エネルギー消費の少ない正浸透法です。

正浸透法は、浸透圧差のある溶液を用いて溶液を濃縮・分離する技術で、エネルギー消費を大幅に削減することができます。実現に向けては、高い浸透圧を有し、容易に再利用が出来るDS(Draw Solution: ドロー溶液)を作り出すことが現在の課題です。

この課題に対し、我々はスラリー(粉を液体に分散させたもの)を利用して高浸透圧を発生し、かつ容易な水の分離と再利用が出来るDSの開発に挑戦しました。今回我々が開発したドロー溶液は温度変化により沈降し、水を分離するため、上澄みを水資源として利用できる可能性を示しました。今後は完全再生可能エネルギー由来で淡水を製造することを目標とし、世界の水問題の解決へ貢献したいと考えています。



現場に役立つ基礎研究  
 法政大学 森研究室



スラリーのこと  
 お困りなら  
 法政大学大学院  
 スラリー工学研究所



理工学部 電気電子工学科  
**望月 典樹** 教務助手  
 Mochizuki Noriki

第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会【優秀講演賞】/計測自動制御学会

講演『Motion-LessVRの研究: 上肢多関節運動の実現に向けた基礎開発』

受賞した講演は、現実の身体での運動を必要としないVR(Virtual Reality)システム[Motion-LessVR(モーションレスVR)]の研究の続報となります。

本研究の目標は、装置に座るか寝転ぶだけで、バーチャル空間を自由に動き回ることができるVRシステムの実現です。現在主流となっているVRシステムは、VRゴーグルを頭から被って、現実の身体を動かすことで、バーチャル環境とのインタラクションが行われます。この場合、バーチャル空間の移動範囲は現実空間のサイズに依存し、現実空間にはあるがバーチャル空間には存在しない物体と衝突する危険性も生じます。

本研究では、現実の身体を装置に固定した状態で、動かそうとする意図をセンサーで計測し、人体の力学モデルに基づいて物理シミュレーションさせています。現実の身体を動かさずとも、意図に応じたバーチャル身体の実現が実現されます。

本講演会では、肩と肘の水平2自由度運動での有効性を検証した結果を報告しました。



肩と肘のMotion-Less VRを実現する装置とその使用イメージ



理工学部 応用情報工学科  
**尾川 浩一** 教授  
 Ogawa Koichi

Outstanding Medical Physicist Award /  
 Asia-Oceania Federation of Organizations for Medical Physics

業績『医学物理学分野で顕著な業績のあった研究者に授与』

この賞は、アジアオセアニア医学物理学学会設立20周年を機に、今までに医学物理学分野で顕著な業績のあった研究者に授与したものです。1980年以降、多くの査読付き論文(169件)ならびに国際会議の会議録(171件)の執筆をしており、学会での論文発表に関しては国際会議で251件、国内の会議で520件の発表を行い、医学物理学分野における学問の発展に寄与してきました。

1991年の法政大学着任後は、X線CT画像におけるメタルアーチファクト低減方法、MRI画像の高速データ収集法において発生する雑音の除去法、超音波画像のスペックル雑音の低減法についても提案しています。核医学装置の研究に関しては、新しい検出器として半導体を用いた高空間分解能、高エネルギー分解能のプロトタイプシステムと、静止型データ収集が可能なマルチピンホールコリメータを装着した3検出器型SPECTシステムを提案。これによりSPECT検査の有用性が拡大します。さらに、次世代システムとなる、フォトンカウンティングX線CT検出器をベンチャー企業とともに開発し、媒質分離やX線CTの機能イメージング手法の提案を行っています。これによりX線CTの臨床応用上の新しいパラダイムが生まれると考えています。



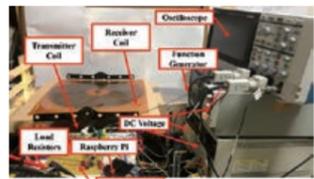
理工学部 電気電子工学科  
**中村 壮亮** 准教授  
 Nakamura Sosuke

第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会【優秀講演賞】/計測自動制御学会

講演『様々な形状の家具へ組み込み可能な柔軟変形コイルを用いた磁界共鳴結合型無線給電に関する基礎開発』

昨今は、ウェア、かけ布団、ぬいぐるみなど、さまざまな柔軟物の電子化が検討され、電子的な機能を付与する試みがなされています。その普及のためには、内蔵の小型バッテリーへの無線給電も重要なテーマで、人体への影響が少ないながらも、長い伝送距離を有する磁界共鳴式無線給電への関心が高まっています。ただ、従来の磁界共鳴式無線給電では、コイル変形時に伝送効率の低下が引き起こされ、柔軟コイルでの利用は困難でした。そこで、柔らかいコイルを用いた磁界共鳴式無線給電において、コイルの形状変化に伴う給電効率の低下を自動で補償する仕組みの確立を目指しました。

具体的には、等価容量を電子制御可能な回路(容量制御回路)を用い、コイル変形に伴うインダクタンス変動を自動的に補償することで共振状態を維持する自動共振補償システムを提案しました。そして、実際の実験を通して、コイル変形時における効率維持の効果を確認しました。



フレキシブルコイルを用いた給電実験の様子



理工学部 電気電子工学科  
**西村 征也** 准教授  
 Nishimura Seiya

第15回日本物理学会若手奨励賞(領域2:プラズマ)/日本物理学会

業績『磁気流体不安定性に対する運動論的效果に関する理論的研究』

私の研究室(プラズマ物理学研究室)においては、磁場閉じ込め装置における核融合プラズマや天体プラズマについて理論やシミュレーションを用いた研究を推進しています。プラズマとはエネルギーの高い電気を帯びた気体のことです。プラズマ科学は、未来エネルギー、材料加工、生命科学、宇宙開発などの広い範囲にまたがる学問領域を形成しており、21世紀の人類社会にとって重要な学問です。

今回の受賞は、磁場閉じ込めプラズマおよび磁気圏プラズマにおける磁気流体不安定性において、運動論的效果を含む拡張磁気流体モデルを構築し、運動論的效果が存在する時の非線形機構を明らかにした3編の論文に対するものです。

それぞれの論文では、磁気圏とプラズマフローとの相互作用を初めて明らかにした他、ジャイロ流体モデルを磁気圏プラズマに適用した点がユニークだと評価されました。

プラズマ物理学では、磁場閉じ込めプラズマと宇宙プラズマの比較研究が進められてきましたが、それぞれの分野において重要な成果が得られたことと、分野横断的研究を推進することでプラズマ物理の普遍性を示すことができたことなどが学術的意義として認められました。



デザイン工学部 都市環境デザイン工学科  
**山本 佳士** 准教授  
 Yamamoto Yoshihito

日本コンクリート工学会賞【論文賞】/  
 日本コンクリート工学会

論文『Shear Resistance Mechanism Evaluation of RC Beams Based on Arch and Beam Actions』(名古屋大学中村光教授らとの共同研究)

鉄筋コンクリート(RC)構造物の安全性評価のためには、せん断破壊に対する耐力を精度良く評価することが重要です。本研究では、数値解析によりせん断破壊するRC梁のせん断抵抗メカニズムを解明するとともに、抵抗メカニズムに基づいた新たな照査式の構築を試みました。

具体的には、3次元剛体バネモデル(Rigid-Body-Spring-Method, RBSM)を用いて、RC梁のせん断抵抗メカニズムを、アーチ機構とビーム機構に分離し、それぞれの寄与率を定量的に評価する手法を提案。この手法を用いると、RC梁のせん断破壊挙動を、ひび割れ性状、応力分布性状、耐力などを含め正確にシミュレートできることを確認しました。

これまでの照査式と比較した結果、一つの式で幅広い領域のRC梁のせん断耐力を合理的に評価できることが分かっています。こうした研究結果が評価され、今回の受賞に至りました。



3次元剛体バネモデルの概要 ひび割れ進展シミュレーションの例



理工学部 電気電子工学科  
**伊藤 一之** 教授  
 Ito Kazuyuki

卒業生、理工学研究科 電気電子工学専攻修了(受賞時修士2年生)  
**作原 祐成**  
 Sakuhara Yusei

卒業生、理工学研究科 電気電子工学専攻修了(トヨタ自動車)  
**清水 宏晃**  
 Shimizu Hiroaki

①【Best Paper Award】/ IEEE International Conference on Intelligent Systems 2020  
 ②【Excellent Reviewer Award】/ Journal of Artificial Life and Robotics

①論文『Climbing Soft Robot Inspired by Octopus』(2人の学生との共同研究)  
 ②業績『論文誌の運営、査読業務への貢献』

①下等生物は、脳の情報処理能力が小さく、中には、脳と呼べる中枢を持たないものも存在します。それにもかかわらず、その振る舞いは適応的であり、ある種の知性を備えているように見えます。この事実は、「脳が身体の各部を制御することで知的な振る舞いを生成している」とする従来の枠組みでは説明がつかず。近年、この矛盾を解決するため、知性の源を身体や環境に求める研究が試みられてきました。

本研究では、それを実証する一例として、生物のタコの振る舞いをヒントに、シリコンゴムで構成された柔らかい身体を持ったロボットを開発し、実際に、極めて簡単な制御方法で適応的かつ複雑な振る舞いが実現可能となることを証明しました。(写真は、壁を登るロボット。Proc. of IS2020より転載)



②今回の賞は、査読業務への貢献に対して、国際論文誌Artificial Life and Roboticsより授与されたものです。これを機に、現在はEditorial Boardとして運営にも携わっています。

2020年度の研究・教育活動に対する

受賞・表彰者の情報は

以下サイトでもご覧いただくことができます。



<https://www.hosei.ac.jp/info/article-20210820112355/>

研究・教育活動に対する

受賞・表彰者の過去の情報は、

ブランディングサイト「法政フロネシス」にも

掲載されています。



<http://phronesis.hosei.ac.jp/feature/award-research>



情報メディア教育研究センター

上田 浩 教授

Ueda Hiroshi

- ① 文部科学大臣表彰【科学技術賞(理解増進部門)】／文部科学省
- ② 2019年度優秀教材賞／情報処理学会
- ①②ともに業績「高等教育機関のための情報セキュリティ規定と教材の普及啓発」

教育機関において情報セキュリティのレベルを確保し、向上させていくためには、情報セキュリティに対するポリシーとこれに基づく規程、細則、手順書などの策定が求められます。しかし、法律および制度、組織運営、情報通信やセキュリティ技術などに対する専門的知識を踏まえた上で、各教育機関が自ら策定する必要があります。参考となる規程集やセキュリティ教育のできる教材が求められていました。

本活動では、政府機関統一基準などと整合させて、大学などの高等教育機関を対象とした情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集を策定した、セキュリティ教育のための教材を開発。すでに多くの教育機関で利用されています。

例えば、開発教材の一つである「倫倫姫と学ぼう！情報倫理：多言語情報倫理・セキュリティ教育オンラインコース」は、各教育機関がLMS(学習管理システム)などを準備することなく、情報倫理やセキュリティ教育ができる環境を実現。日・英・中・韓の4カ国語版を提供することにより、留学生が日本の考え方を学ぶためにも有用な教材となっています。同コースは2017年までに全国の大学・高専の2万以上のユーザーに利用されています。



大学院政策創造研究科

石山 恒貴 教授

Ishiyama Nobutaka

- 第18回(2020年度)JAASアワード【優秀研究賞】／経営行動科学学会
- 著書『日本企業のタレントマネジメント—適者開発日本型人事管理への変革』

近年、人事管理で実務的に注目され、かつ国際ジャーナルで急速に研究蓄積が進む概念がタレントマネジメントです。本書は、タレントの定義を「個性に応じた天賦の才能を有しながら努力してその開発を継続する個人であり、在籍する組織の環境に適合し貢献する存在」と提示し、グローバルなタレントマネジメントの概念を体系的に整理・議論するとともに、日本企業におけるタレントマネジメントについても分析焦点をあて、その実態を示しています。

「タレントマネジメント」という概念を学術的に体系化し、日本型人事管理の特徴と位置づけを踏まえた上でどのように適用すればいいか、その在り方が実践的に提示されています。理論的分析と詳細な事例研究を提示しているため、タレントマネジメントの実務担当者の実践的な応用も可能です。

タレントそのものに関する系統的な先行研究レビュー、日本型人事管理とタレントマネジメントの比較、タレントマネジメントを導入している企業(サトーホールディングス、味の素、カゴメ)の事例研究等丁寧に分析することによって、新奇性の高い、具体的な事実の発見につながっています。

こうした功績が評価され、今回の受賞に至りました。



生命科学部 応用植物科学科

大島 研郎 教授

Oshima Kenro

- 令和3年度日本植物病理学会【学会賞】／日本植物病理学会
- 業績「ファイトプラズマの生存戦略の分子生物学的研究」

私が研究対象の一つとしている「ファイトプラズマ」は、植物の節節細胞に寄生して病気を引き起こす微生物です。ファイトプラズマ病はヨーロッパで年間数億ユーロにのぼる被害を出すなど、世界中で多くの農作物に被害を与えており、この病気のまん延を防ぐことが近年の重要な課題となっています。

ファイトプラズマは人工的に培養できないため、研究するのが難しい微生物でした。私たちはファイトプラズマの性状を明らかにするためにゲノム解読を試み、世界で初めてファイトプラズマの全ゲノム解読に成功しました。驚くべきことに、ファイトプラズマは進化の過程で多くの代謝系遺伝子を失い、さまざまな物質を宿主に依存して生きる細菌であることが明らかとなりました。生命には必須とされていたF型ATP合成酵素さえも失っているユニークな特徴を持つことから、「生命とは何か」という疑問に一石を投じる発見となりました。

さらに病原性因子に関する研究を行い、てんぐ巣症状を誘導する病原性因子「TENGU」、花が葉に変わる葉化症状を誘導する病原性因子「PHYL1」の存在を初めて明らかにしました。これらの功績により、このたび日本植物病理学会から学会賞を賜りました。

2020年度受賞・表彰を受けられた方々へ

副学長・学術支援本部担当常務理事

金井 敦

Kanai Atsushi



この度は栄えある受賞・表彰、誠にありがとうございます。

本学は文系から理系分野まで非常に幅広い研究、教育活動を行っています。活動は大変活発であり、その結果として本年度も幅広い研究分野で多くの受賞・表彰がありました。受賞・表彰は研究成果や活動が社会に認められた客観的証しということであり、受賞・表彰者の皆様の日頃の絶え間ない努力と熱意そして情熱に敬意を表するとともに、誇りに思います。

研究活動はその成果のみならず、その過程では学生と一緒に研究する場合も多く、教育の側面も持っています。大きな研究成果が得られているということは、教育においても大きな効果が出ていることだと思います。学生が同時に受賞されている場合はもちろんのこと、教員のみの表彰であっても受賞された先生の背中を学生が見ることによる教育効果は大きなものだと思います。

このような受賞・表彰は個々の教員の枠を超えて法政大学のプレゼンスを高め、ひいては学生、教職員のステータスも高める効果があり法政大学そのものにも貢献していると言えると思います。今後のさらなるご活躍と大きな成果を期待しております。



日本統計研究所

菅 幹雄 所長

Suga Mikio

- 2020年度公的統計活動支援奨励賞(石橋賞)／公益財団法人統計情報研究開発センター
- 業績「日本の公的統計の作成及び利活用並びにこれに関連する分野において顕著な貢献」

公的統計活動支援奨励賞(石橋賞)は、日本の公的統計の発達、利活用の促進などに寄与することを目的として、日本における公的統計の作成および利活用、これに関連する分野において顕著な貢献を果たしてきた研究者を顕彰、奨励するために、令和2年度に創設された賞です。

長きにわたり統計学の一分野である経済統計学を主に専門に研究し、国勢調査や経済センサスなどの公的調査も関与してきました。世帯を対象とした国勢調査と、事業所・企業の経済活動を調べる経済センサスでは、データの利用目的が違うこともあり、調査手法や注意すべき点は大きく異なります。どちらにも携わっているのは珍しい例かもしれません。調査結果を分析する他、調査設計を策定して、調査の方向性を定め、調査項目を検討する作業などにも携わっています。こうした実績が評価され、今回新設された公的統計活動支援奨励賞(石橋賞)をいただくことになりました。

現在所長を務めている「日本統計研究所」は、第二次世界大戦中に日本銀行内に開設された「国家資力研究所」を前身組織とする、法政大学の付置研究所です。その歴史をかみしめながら、今後も公的統計の利活用に携わっていきたく考えています。



グローバル教養学部 グローバル教養学科

グレゴリー ケズナジャット 准教授

Gregory Khezmejat

- 第2回京都文学賞【一般部門、海外部門ともに最優秀賞】／京都文学賞実行委員会(京都市、京都新聞、一般社団法人京都出版文化協会など)
- 著書「鴨川ランナー」

京都文学賞は京都をテーマとする未発表の小説を公募する賞であり、一般部門、中高生部門、海外部門で構成されています。拙作『鴨川ランナー』は一般部門最優秀賞ならびに海外部門最優秀賞に選定されました。

故郷での日本語学習を経て、英語教師として京都府の山奥へ赴き、ようやく日本文学の魅力に目覚める青年の物語を描く『鴨川ランナー』は、広く言えば近代日本文学を代表する私小説の形式をなぞりますが、一方、日本文学には比較的珍しい二人称の語りを採用することで、作者と読者を隔てる境界線のぼやかしを試みる作品です。今年秋に、二作目の小説『スピーキング・イン・タンクス』(仮題)とともに刊行される予定です。

両作は、「グローバル化」「多文化共生」「英語教育」などといった手垢のついたキーワードで語られがちな、複数の言語と文化のあわいに生きている者の曖昧な現実を捉えようとする点で、グローバル教養学部で行われている教育研究活動にも深く結びついているといえるでしょう。

人数こそ少ないものの、日本語を母語としない作家の活躍は近年、注目を集めつつあります。拙作もささやかながらこの分野のさらなる展開に貢献し、日本文学の定義を再考する機会を読者に与えることができると望んでいます。



HOSEI  
Graduate Interview  
**卒業生**  
インタビュー

## 物事の良い面に目を向け、 自分らしく前進していきたい

editwise 代表、東京2020オリンピック(セーリング)・パラリンピック(パワーリフティング) 競技大会  
ベニューメディアマネジャー

### 西朝子さん

今夏開催された東京2020大会ではセーリングとパワーリフティングの会場でメディア運営統括担当者を務めた西朝子さん。人生で何かを決断するときには、良い展開を思い描くことも大切と言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

#### 運営も取材も特殊な セーリングの大会

東京2020オリンピック競技大会では、神奈川県江の島で10種類のセーリング競技が行われました。私が担当したのは、関係セクションと調整しながら、滞りなく取材が行える環境を整え、運営する業務です。

競技が海上で行われるため、会場から試合状況を見ることはできず、記者やカメラマンは専用ボートに乗ってレースの取材をします。また、複数種類のレースが並行して実施されるため、運営スタッフは、会場のモニターで放送されるライブ映像だけでなく、ヨット搭載のGPS経由で移動ルートを読み取るなどして、進行状況を把握します。大会前には、セーリングへの関心を高める目的で、多くの国際大会が国内で開催され、そのプレスオフィサーも担当しました。足掛け5年間国内外のメディア関係者を相手に仕事をしてき

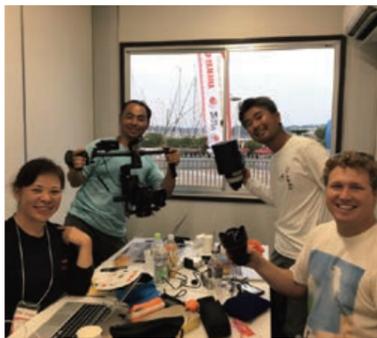


東京2020大会のメダリスト記者会見で、司会進行を務める西さん(左端)。

たので、顔なじみも増えました。  
ヨットのサークルと  
ゼミで築いた信頼関係

大学進学時は、文学部史学科で遺跡の発掘をするか、社会学部で新聞記者を目指すか迷いましたが、未来を考えると、ヨット教室に通った経験があり、ヨット部にも思ったのですが、当時は女性部員がいなかったため、サークル「法政セイリング」に入り、週末と長期休暇の年間約100日を横須賀の合宿所で過ごしました。

須藤春夫先生の広告論をテーマにしたゼミは、広告代理店を目指す学生が多く、白馬山荘の合宿では夜更けまで討論をしたものです。友人同士でも、



江の島で2017年に開催されたセーリング国際大会の広報チーム(左端が西さん)。

場合によっては気遣いも必要でしょう。しかし、私の場合は、少し羽目を外したり、本音を出したりして、関係や信頼を深めました。大学はそういう場であってほしいと思っています。

#### 就職、転職、そして ニュージールランドへ

就職活動は、新聞社や出版社の採用試験を片っ端から受けましたが、なかなか決まりませんでした。他業界では内定を頂いたのですが、4年生の冬まで就職活動を続け、IT業界紙を発行する会社に就職しました。

ちょうどパソコンが普及し始めた頃で、知識の乏しい新人にも、ゲームソフト開発会社の技術者から大企業の社長までさまざまな人を取材をし、記事を書く機会が与えられました。仕事にやりがいを感じていた時、たまたまヨット・ボートの専門誌で社員募集を目にしたのです。定期採用がなく、就職活動時にあきらめた会社だったため、迷わず応募し、転職しました。

以前にも増して仕事を楽しくていましたが、転職して6年目、世界最高峰のマッチレース「アメリカズカップ」で優勝したニュージールランドに行ってみたく強く思ったのです。取材の機会も長期休暇制度もなく、ワーキングホリデーの年齢上限の30歳が迫って

た私は、会社を辞め、ニュージールランドへ旅立つ決意をしました。

#### 苦手な英語を克服 価値観や世界も大きく広がる

実は、大学では通常1・2年次に履修する英語の授業を4年次まで受け続けるほど、英語が苦手でした。一日中英語の中で生活するうちに、苦手意識は薄れ、少しずつ英語が聞き取れるようになっていきました。

語学学校では、台湾、韓国などの人と知り合いになり、周囲から見れば「アジア人」とひとくくりでも、価値観や考え方には違う部分があって面白いと感じました。ラグビー留学をしていた日本人の手ほどきで、ラグビー観戦という新たな趣味もできました。

3カ月目に入り、そろそろ仕事も始めようと思った矢先、新創刊の日本人向けフリーペーパーで編集者の募集があり、運良くそれに採用されました。

ニュージールランドが気に入り、就労ビザを得てフリーペーパーの仕事を数年続けていたのですが、アメリカズカップがニュージールランドで開催されることになり……。またもお世話になった会社を辞め、2000年、2003年と2大会連続で大会のメディアセンターのスタッフを務めました。2005年には拠点を日本に移し、

現在はスポーツ大会や団体、チームなどの広報の仕事が中心となっています。計画性のない人生で、今振り返ると、「あの時、別の選択肢を選んでいたら」と思う分岐点もいくつかあります。それでも、やみくもに手を出してきたわけではなく、経験や興味を次のステップにつなげてきた自負もあり、後悔はしていません。

「失敗したらどうしよう」と迷ったり不安を感じたりするのは、物事の悪い面ばかりを見ているからかもしれない。ぜひ、その反対側にある良い面にも目を向けてみてください。これからも自分の中の軸を信じて、楽しむことを忘れず、自分らしく前進していきたいと思えます。

#### Nishi Tomoko

1966年神奈川県生まれ。法政大学女子高等学校(当時)から社会学部社会学科に進学。1989年3月に卒業後、IT業界紙の記者、雑誌の編集者を経て、1995年から10年間ニュージールランドに滞在。帰国後はフリーランスのライター、編集者、スポーツ大会等のPR担当として活動。セーリングの国際大会の他、ラグビーワールドカップ2019でも、熊谷会場ベニューメディアマネジャー(会場のメディア運営統括担当者)を務めた。





# 労働経済と40年、顧みれば

経営学部経営学科 教授 奥西好夫



## 労働省時代

私の職業生活は1980年、労働省(当時)に就職し、労働経済課に配属された時に始まります。これは、後に労働経済の研究者になった原点ともいえる経験でした。

もう一つ得がたい経験となったのは、2年目の北海道労働基準局での勤務です。研修的な意味合いの配属で、監督官の監



北海道労働基準局時代、青函トンネルの掘削工事現場で(1981年)

督や災害調査への同行、電話相談への対応、司法送致書の内容要約カードの作成などを行いながら、学ぶことが多い日々でした。労働者からの訴えの数々は無論のこと、事業者側にも不注意による事故、経営上の困難による法令違反もあれば、はなから遵法意識の欠如した経営者もあり、実社会の一端に触れることができました。自分の無知、無力を痛感し、人事担当者に地方での勤務延長を希望しましたが、かないませんでした。

戻った先は雇用政策課という多忙な部署で、ストレスがたまりました。そうした中で、勉強をし直したいとの思いも募り、人事院の留学制度で米国ニューヨーク州のコーネル大学修士課程に入学し、労働経済学を専攻しました。

帰国後は再び労働経済課に配属されましたが、円高不況からバブル景気へと経

済情勢が目まぐるしく変わる中で、業務は以前にも増して多忙でした。組織の問題点がいろいろと目に付くようになり、リクルート事件が発覚したのもこの時期です。個人的にも多少悩みましたが、1989年夏、労働省を退職し、コーネル大学博士課程に進学しました。

## コーネル時代、ハワイ時代

二度目の留学は、私の人生の中でも楽しく充実した時期でした。リサーチアシスタントとなり、授業料免除と月約10万円の手当が出たのもありがたいことでした。博士論文は指導教授の勧めもあり、日本に関するテーマを選びました。①定年延長と昇進、賃金プロファイルの関係、②ポーンズの個人インセンティブ機能、③定年前・後を含めた定年退職システムの3点で、簡単な経済モデルを作り、そ

の含意をデータを用いて検証するというスタイルです。

博士課程を終えた1993年は就職の厳しい年でしたが、ハワイのイースト・ウエストセンターという連邦政府系の研究所に就職できました。

研究所では人口部門に所属し、主に日本の外国人労働者問題について研究しました。多くの同僚が人口学や社会学の専門家で、労働経済学との重複領域といえ、人口移動であったことが理由です。また、「東アジアの人口変化と経済発展」プロジェクトにも参加し、経済発展と労働市場の関係に関するテーマを担当しました。

当時全ての採用ポストは任期付きで、最初は3年の契約でしたが、連邦政府の財政赤字削減策の一環として1995年9月の財政年度から予算が半減され、約半分のスタッフがリストラされました。私もその対象になる予定でしたが、幸運にもその1年前に、法政大学の小池和男教授が法政大学経営学部への就職を推薦してください、失業を経ずに転職できました。小池先生とは、コーネル時代とハワイ時代に各1回セミナーで一緒に過ごしただけのご縁でしたが、法政への転職後も何かと親切に指導していただき、感謝の念に堪えません。

## 法政大学時代

着任してしばらくは正直、浦島太郎の



マレーシアの「多様性」ワークショップで参加者と。前列左が奥西教授(2014年)

ような感覚でした。6年間日本を離れたいた間に、世の中が大きく変わってしまった印象を受けました。日本の学生を相手に授業をするのも初めてで、どのような言葉で話したらよいか戸惑いました。研究では、とりあえず博士論文の延長で高齢者雇用に関する論文をいくつか書きました。ハワイ時代に手掛けたアジアの労働市場研究からは遠ざかってしまいました。2000年前後から十数年間、アジア諸国の人事担当者や日本の人事管理や労使関係について講義する研修の講師やコーディネーターを務めたので、アジア各国の状況を知る機会には恵まれました。

境は時代遅れの職能給にある。経済の好調な米国を見習って職務給を採用すべきだ」というものです。これには驚きました。1990年前後、日本経済は絶対好調、米国経済は絶対不調であった時代を知っているからです。そもそも職務給は、成果給とは別物です。もう一つの研究テーマは、非正規雇用の増加など雇用形態の変化についてです。

これら2つの研究テーマには共通点があります。一つは、いずれも日本企業の人件費削減に大いに貢献したことです。職務給の普及もあり、年齢・賃金カーブは随分フラットになりました。それでも一つは、日本企業の人材育成機能を弱体化させた可能性が高いことです。

非正規雇用は雇用期間や職務範囲が限定的であるため、OJT(職場で仕事をしながら能力を身に付ける)の機会が限られ、Off-JT(講習など職場外での学び)も貧弱なのが一般的です。また正規雇用も、賃金カーブのフラット化は長期の投資インセンティブを弱める可能性が高く、職能給から職務給への移行は柔軟な異動の障害となり得ます。さらに人員削減で職場に余裕がなくなり、そうした面からも人材育成や技能伝承の機能が弱体化しているように感じます。

こうした課題については、まだきちんと研究していませんが、残り少ない法政大学での教員生活の間にぜひ取り組みたいと思っています。

※職能給は個人の仕事能力の評価で決まり、勤続によって上がる傾向が強い。一方、職務給は実際に就いている仕事の価値で決まる。



### Okunishi Yoshio

1957年生まれ。1980年東京大学経済学部卒業、1987年コーネル大学労使関係スクールにてM.S.を取得、1993年同スクールにてPh.D.を取得。1980～1989年労働省、1993～1995年イースト・ウエストセンターを経て、1995年法政大学経営学部助教授として着任、1998年より同教授。主要論文に、「企業内賃金格差の現状とその要因」『日本労働研究雑誌』(1998)、「成果主義」賃金導入の条件』『組織科学』(2001)、「正社員および非正社員の賃金と仕事に関する意識」『日本労働研究雑誌』(2008)、「労働市場と労働生産性に関する若干の考察」『日本の強みを生かした「働き方改革」を考える(日本経済調査協議会調査報告)』(2019)など。

## 誰も取り残されない社会を どのように構築するか考える

米国への留学経験で文化や思想の多様性を体感し、リプロダクティブ・ライツ（生殖に関する権利）に着目した研究を  
続けている佐伯英子准教授。ジェンダーと身体の問題に取り組んでいます。

人間環境学部人間環境学科 准教授 佐伯 英子



世論の力で社会が動く  
その様相を捉えたい

専門は社会学です。社会の中で「命の始まり」はどのように捉えられているのか。リプロダクティブ・ライツ（生殖に関する権利）という概念に基づき、学際的な視点からジェンダー、身体、医療などに関連する研究を続けています。現在注目しているのは、アイルランドの情勢です。厳格なカトリック教徒が多いアイルランドでは、近年まで同性婚や人工妊娠中絶に対して厳しい姿勢が取られてきました。ところが、2015年には、同性婚を国民投票で合法化した世界初の国となり、2018年の国民投票では、それまで「胎児の生存権」を認め、事実上禁止とされていた人工妊娠中絶が、一転して合法化されたのです。

保守傾向が強い国で、世論が社会を動かし、歴史的な転換を起こすまでに至ったのには、どのような背景があったのか、今後どうなっていくのか。こうしたことに興味を持ち、現地調査などで渦中にいる人たちの思いを確かめながら分析しています。

法政大学が取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）には「誰一人取り残さない」という大切な原則があります。しかし、ジェンダーのことを考

えると、多くの人が取りこぼされているのが現実でしょう。日本にも格差や偏見が存在し、他の国に比べてジェンダー・ギャップ指数が低いという結果が出ています。

それでも、一見変化を望まないように見える保守的な社会でも何かのきっかけで変わることがあると、アイルランドの例が教えてくれました。歴史や状況、背景が異なるのでそのまま比較することはできませんが、逆照射することで日本のことがもっと見えてくるのではないかと期待を寄せています。

### 自由な発想を口に出せる 環境づくりを

大学における学びでは、知識の習得に加えて、自分で考える力を育むことが大切です。そこで、授業では社会問題に関してメディアでの語られ方、描かれ方、データや理論を分かりやすく提示し、まずは何を感じるのかを問うようにしています。一つの答えを押し付けることなく、突拍子もない考えでもオープンに口にできる空間をつくるように意識しています。

そうしたかわりは、私自身の学びの経験の中で培ってきました。米国（ハワイ）の大学に進学した後、米国で暮らしながら10年間研究を続けました。国籍も話す言語も文化的背景



大・中・小のさまざまな銅鑼や鉄琴のような鍵盤打楽器で合奏するガムランの練習風景。写真は、ハワイ大学時代の一枚



2019年に実施したフィールドスタディでは、ハワイ大学が所有するタロイモ畑で、伝統的な農作業を学んだ



ゼミでの発表風景。対面の授業が再開してからは、アクリル板を用いて感染対策を施しながら、授業を進めている

も異なる人たちが集まる中では、自分の中では「当たり前」なことでも「正解」だとは限りません。違って当たり前だからこそ、意見の違いを恐れずに声を上げる勇気を持つこと、誰の考えも否定せずに聞く姿勢を学生のうちから大切にしたいと考えています。

留学中に、もう一つ夢中になったことが音楽です。インドネシアの伝統的な民族音楽であるガムランに魅了され、研究の合間を見計らってアンサンブル（合奏）に参加するほど没頭していました。今は合奏に参加する時間が取れず、遠ざかってしまっていますが、状況が許すようになれば再開したいと思っています。

多くの音楽には思いが込められていて、感情や思考が揺さぶられることから社会運動の中でもとても重要な位置を占めています。政治や社会への憤りなど、歌詞に含まれるメッセージ性により、社会を動かす力になることもあります。そうした力の一端を感じられるよう、その日のテーマに関連する音楽を流しながら講義を試みたいとアイデアを膨らませています。

### 理論と実践をつなぎながら 自分なりの「実践知」を育む

2016年に人間環境学部のSCOP E（英語で提供される持続可能社会共

創プログラム）が開設されたことがきっかけで、法政大学の特任教員となり、2019年からは専任教員として務めています。

社会学では、当事者の思いを聞いた、実際はどうなのかを調査して確かめる、そうした学外での体験の積み重ねが大切です。幸い、人間環境学部には独自の教科科目としてフィールドスタディ（現地実習）があり、机の上で理論を学ぶだけでなく、実践へとつないでいきます。学生たちもグループワークなどに取り組み姿勢が前向きなので、フードパントリー（食糧支援をする施設）でボランティアをするなど、ゼミでもフィールドワークの計画を立てていたほどです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、保留状態になってしまっていることは残念ですが、学際的な人間環境学部で学びを深めていける環境に感謝しています。学生たちにも、経験を積み重ねながら多面的な視点を身に付け、自分なりの「実践知」を育んでほしいと願っています。

### Saeki Eiko

ハワイ大学マノア校人類学部卒業、同大学社会学部卒業、同大学社会学部修士課程修了。博士（社会学）。ラドガーズ大学社会学部講師、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科研究員を経て、2016年より法政大学人間環境学部の特任准教授として着任。2019年より同学部准教授に就任、現在に至る。

※ジェンダー・ギャップ指数：「The Global Gender Gap Report（世界男女格差レポート）」にて公表されている、世界各国の男女間の不均衡を示す指標。2021年度版では、日本は156の国・地域のうち120位。男女格差が大きいほど指数は低くなる。

杉浦末樹教授ゼミでは「Sカレ」と呼ばれる大学ゼミ対抗の商品企画コンペに挑戦しながら、商品開発や販売促進のプロセスを実践的に学んでいます」と紹介してくれたいのは、パッケージデザインに興味があるという佐々木さん。「2年次はテキストを輪読しながら商品企画の基礎を身に付け、3年次からはチームに分かれてコンペに参加しています」

Sカレの評価は2段階に分かれ、10月に開催される「秋カン」で商品のコンセプトを、12月開催の「冬カン」で商品化を実現するためのプランを競います。商品化権を得たチームは、翌年の秋カンまでの販売実績によって総合的な成績が決まります。「夢中になって自分の考えを話し、他人の考えを聞き、意欲的に取り組んでほしい」と語る杉浦教授。学生へのアドバイスにも熱が入ります。そうしたサポートを受け、2020年度のSカレでは、杉浦ゼミ内で考案した「チエキ」のマグネットシールがコンセプト優勝。次回の秋カンまでに販売実績を上げようと、ゼミを挙げてバックアップ。販促プロモーションには2年生も協力しています。

「四つのチームに分かれて、さまざまな方法で販促プロモーションを進めています。私と佐々木さんは同じチームで、写真投稿サイト（インス

### 経済学部現代ビジネス学科 杉浦末樹教授ゼミ



## 学生コンペを通じて 商品企画や販売促進の スキルを実践的に習得

ゼミナール・研究室

上段左から、杉浦末樹教授、石田志羽さん（経済学科3年、ゼミ長）、北田莉子さん（経済学科3年）  
下段左から、佐々木由斗さん（現代ビジネス学科2年）、孫婉婷さん（経済学科2年） ※全員、経済学部 ※今回はオンラインで取材しています



ニチレイマグネット株式会社様への提案でテーマ優勝して、今秋商品化を実現した「ピタッとチエキ」。チエキに貼り付けて使えるマグネットタイプのシール

毎年行われている経営学部市場経営学科西川英彦教授ゼミとの合同ゼミの様子。西川ゼミもSカレに参加し、商品企画を競い合っている。写真は2019年のもの

夏合宿では伝統工芸や手づくり体験など、クリエイティブな体験を実践。写真は、2019年にかまぼこの手づくり体験を楽しんだ時の一枚

タグラム）を利用したキャンペーンに取り組んでいます」と語るのは孫さん。「キャンペーンを盛り上げることで商品に興味を持ってもらいやすくなるので、アイデアを出し合いながら、試行錯誤しています」

3年生は三つのチームに分かれ、新たなテーマでの商品企画に着手。「自然豊かな兵庫・多可町の新たな土産品開発に取り組んでいます。長引くコロナ禍で、現地調査や対面でのミーティングができないため、オンライン環境でも自由に意見を出し合える雰囲気づくりを心掛けています」と語るのは、北田さん。「将来は生活に欠かせない、人々の当たり前を支えるような商品づくりを手掛けたい」と意気込みを見せます。

「新たな商品を作り出すには、アイデアを持ち寄り、意見を出し合って協力することが必要だと実感しています」と語るのは、ゼミ長の石田さん。「学生のうちから、実際の商品企画や販売促進に関わり、商品化を目指すのは、本当に貴重な機会です。ゼミ生はみんな、実践した経験の一つ一つを自分の成長につなげ、将来に役立てたいと意欲を燃やしています。私自身も、社会課題の解決に取り組む、多くの人を笑顔にできる商品を作りあげてみたい」と、未来の自分に期待を寄せます。

※1 Sカレ：テーマに基づいて実際の商品の企画・販売実績を競う、大学ゼミ対抗のインターカレッジ。正式名称は「Student Innovation College」。2020年度は25大学29ゼミが参加。秋カン（Autumn Conference）と冬カン（Winter Conference）により商品化の権利を競い合う。  
※2 チエキ：撮ったその場で、ミニサイズの写真がプリントできるインスタントカメラ。

多摩キャンパスで活動する手話サークル「ちゅらたま」。「手話を、独自の言語として学んでいきます」と活動内容を紹介してくれたのは山森さん。「聴覚に障がいのある人が音を頼りにせずに意思疎通を図るための手話は、コミュニケーションツールというよりは言語です。ジェスチャーやパントマイムが基になっているので世界共通と思われがちですが、『ありがとう』『ごめんなさい』などの簡単な言葉の表現も国ごとに異なります。手の動きに加えて表情との組み合わせが重要など知らないことも多いので、辞書や参考資料を活用して学んでいます」。

「手話を通じて、聴覚に障がいを持つ人が形成している『ろう文化』の存在を知り、もっと理解したいと思うようになりまし」と語るのは前島さん。「文化が違えば認識が違ふことを意識する大切さを学びました。例えば、9時50分のつもりで『10時10分前』と手話で伝えると、『10時10分前より前、10時5分くらいかな』と認識されてしまうこともある。このズレに気付かず、時間を約束すると遅刻になるわけです。こうした認識のズレを知らないでいると、お互いに誤解が生まれてしまいます」。

コロナ禍で大学の施設の使用が制限されるようになってからは、オン

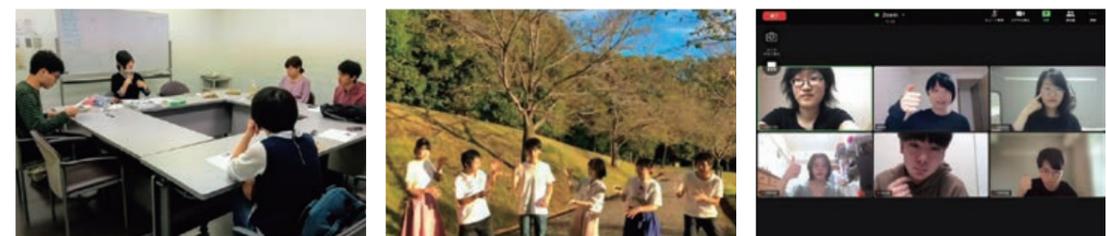
### 手話サークル「ちゅらたま」

## 音に頼らない世界での 「ろう文化」を理解するため 手話を言語として学ぶ

クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています

上段左から、渡邊来旗さん（現代福祉学部臨床心理学科3年／代表）、須田柚奈さん（現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年）、下段左から、前島怜佳さん（経済学部経済学科2年）、山森一輝さん（現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年）



多摩キャンパスのEGG DOME内にある部室に集まったの活動風景。現在はオンラインを併用したハイフレックス型で活動している（写真はコロナ前の活動風景）

歌の歌詞を手話で表現しながら、J-POPなどを楽しむ「手話歌」のワンシーン。こうした動画を撮影して、大学祭や活動紹介などに利用している

大学の施設が利用できない時期は、ウェブ会議ツールを利用して活動。お互いの様子を見ながら、手話の学びを深めている

ラインと対面の活動をフレキシブルに選ぶ、ハイフレックスで活動を継続。以前からSNS（交流サイト）を利用した交流や情報発信を手掛けていたのでオンライン活動への移行もスムーズで、むしろ交流が活発化したといえます。

「ストイックにコツコツ勉強するよいうなタイプのメンバーが多いだけに、楽しんで活動することを意識して心掛けています」と語るのは、代表を務める渡邊さん。「お互いに教え合うことで自分が理解した認識を共有したり、オリジナルのゲームを企画したりするなど工夫しています。大学生活の数年間の中で理解できることは限られているだけに、楽しいからもっとやりたい、続けたいと思ってもらえる時間にしていきたい」と部内の雰囲気づくりに努めます。

現在のサークルの基盤を築いたのは、「将来は障がい者支援に関わりたい」という夢に向かう、前代表の須田さん。「認識の違いに気付かず、相手に傷つけるようなことがないように、思いやりと倫理感を持って手話に取り組んでほしいと思って活動してきました。4年間の活動で、どうにかスタートラインは用意できたと自負しているので、後は任せます」と頼もしい後輩たちを見ながら、思いをつなぎます。

※ハイフレックス：「Hybrid-Flexible」を略した言葉で、オンラインと対面を併用した、同時双方向型の学びの手段のこと。

# THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。  
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介しします。



## ヨット部

撮影場所：八景島マリーナ  
(神奈川県横浜市)  
撮影：田中伸弥  
集合写真：ヨット部提供

ヨット部は、1935年に創部され今年で86年を迎えます。大会期間中は神奈川県三浦郡葉山町、それ以外は横浜市の八景島にある合宿所を拠点に活動しています。現在の部員はプレイヤー16人、マネージャー1人の計17人です。過去には、全日本学生ヨット選手権大会(全日本インカレ)で優勝した経験や、オリンピックに出場した先輩なども輩出しています。「貫徹」というスローガンのもと、全日本インカレ総合入賞を目指して、日々練習を重ねています。ヨット部では、一年を通して新入部員を募集しています。大学から新しいことを始めたいと思っている方、海に少しでも興味がある方、ぜひ一緒に活動してみませんか。

## Message

「自由を生き抜く実践知」を  
体現している  
学生の声を届けます。

## コロナ禍で生きる、理系の力

理工学部応用情報工学科4年  
小金井企画実行委員会委員長

Sugawara Taiki

菅原 太樹さん

学校で学んだことを具体的に実践してみたい。思えばこの思想は私が付属校である法政大学中学高等学校に在籍していた頃から、育まれていたのかもしれない。

私は法政大学に入学した時、真つ先に小金井キャンパスで公式行事の企画・運営を行う企画実行委員会への入会を決めました。何か新しいことをやってみようという気持ちでいたことを覚えています。

しかし、2020年。委員長になった3年生の秋、世の中はコロナ禍で未曾有の状況にありました。

企画実行委員会は、安全に行事を開催するため、さまざまな対策を行いました。その一環として、全参加者がいつ、どこに立ち寄ったのかを把握する必要に迫られました。これは、われわれにとって大きな試練でした。10000人を超える参加者が集う新入生歓迎会で、いつ、どこに、誰が立ち寄ったかを把握するのは非常に時間がかかり、誤りも生まれます。悩み考えた末、私の研究分野である情報工学の技術を用いて、「MINERVA」という入室管理システムを構築しました。実践に当たり、授業内で培った知識を活用しました。実装してみ



ると、動くと思っていたプログラムが動かない、画面が真っ白になってしまふなど、さまざまな困難がありました。授業では学べなかった内容も含めて実際に経験できたことは、私にとって大きな糧となりました。

コロナ禍において、小金井企画実行委員会は学生の楽しみを奪わないよう、常にできることを考え続けています。そのため、全国と同じ境遇の学生のために、このプログラムを開発者向けのネットサービス「Git\*Hub」にて無償で公開しました。

こういった活動ができたのは、法政大学の「自由を生き抜く実践知」を

掲げた大学憲章があつてこそだと感じています。社会的に困難な局面で、自らの意思で自分の技術を存分に実践することができました。

今後また皆さんの壁があると思います。しかし、逆境でこそ自分の力を生かすことができる、「MINERVA」の開発を通じて知ることができました。そして、この活動はたくさんの方の教職員の方、友人に支えられて成し遂げることができたと感じています。小金井企画実行委員会としても個人としても、今後も技術の実践を用いてさまざまな課題に挑戦していきたいです。

※GitHub：プログラム開発者向けのプラットフォーム(必要な情報を共有できる共通基盤)。情報を公開することで、他の人もプログラムコードなどを再利用できる。

# 後援会だより

「子どもの母校は我が母校」  
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

## 2021年度支部総会・父母懇談会総括



後援会会長  
友利 方彦 (文香 / 国際文化学部)

後援会における重要な年間行事の一つである「支部総会・父母懇談会」は、毎年7月から8月にかけて開催されています。例年であれば、会場に集まり、支部総会において年間事業報告・計画や予算・決算、新役員の承認などが行われ、その後、父母懇談会で会員相互の親睦を図っています。しかし、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、後援会本部の判断で、支部総会は一切にオンラインによる電子表決とし、父母懇談会は開催中止といたしました。

2021年度は、2年連続の開催見合わせを避けるという強い決意の下、本部から支部へ「オンライン式」「対面・オンライン併用式」「電子表決式(父母懇談会なし)」の3方式を提案し、開催地の新型コロナウイルス感染

拡大の状況を踏まえ、各支部に適切な開催方式を選定していただきました。

その結果、10支部がオンライン式、17支部が対面・オンライン併用式、9支部が電子表決式による開催となりました。オンラインまたは対面併用の方式で開催した27支部における出席者総数は約550人で、例年の対面式開催に比べ約4%減にとどまりました。

今年度は、石川県支部と長野県支部において、設立30周年の周年事業が執り行われました。また、かねてより支部統合の協議を進めてきた福島支部と郡山支部が、今年度の支部総会をもって統合し、「福島県支部」が設立されました。今後は全国35支部体制で活動を行ってまいります。

父母懇談会ならびに周年記念事業には、大学から廣瀬克哉総長をはじめ、

常務理事、学部長の皆さまにオンラインで参加いただき、「ウィズコロナ期における法政大学の『授業』と『学生生活』について」と題し、ご講演をいただきました。時節柄、関心が高いオンラインによる授業・就職活動や大学拠点でのワクチン接種の動向などについて、有意義な意見交換も行われました。廣瀬総長をはじめ、多くの大学教職員の方々の協力に御礼申し上げます。

支部役員の方々に御礼申し上げます。支部役員は、開催に向けた準備や当日の運営など、ご負担は大変であったと推察いたします。そのご尽力に改めて感謝申し上げます。後援会本部では、オンライン会場設定に関する予算や技術面でのサポートを通して開催を支援し、支部側には、父母懇談会冒頭でのあいさ



つの時間や、オンラインではありませんが、本部役員と支部役員・会員との交流の機会を設けていただきました。

新型コロナウイルスの感染拡大が沈静化し、通常の後援会活動が再開できるまでには、まだまだ時間を要しそうです。後援会本部としては、引き続き各支部会員の皆さまからのご意見・ご要望を大学関係者に伝え、大学と連携して学生の学びに対する支援に努めてまいります。後援会活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 青森県支部総会・父母懇談会報告



青森県支部長  
法量 忠博 (知南 / 経済学部)

青森県支部では7月10日(土)、当支部では初めてとなるオンライン式での支部総会・父母懇談会を開催しました。

2020年度の支部総会では、新入生役員の提案が行えなかったことから、新たに1・2年生役員8人が承認され、事業・決算報告、事業計画・予算案の全てが可決・承認されました。

父母懇談会では、大学の奥山利幸常務理事からコロナ禍における大学の対応などを中心にご講演いただきました。講演後には、コロナ禍における大学の講義の在り方や就職活動などについて、閉会の間際まで活発な質疑応答・意見交換が行われました。

オンラインでも参加者が6人にとどまったことや懇談時間の設定など、今後に課題も残しましたが、開催に当たりご協力いただいた皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



## 支部総会・父母懇談会を終えて



関西支部長  
岩本 雄行 (侑也 / 経営学部)

関西支部では8月1日(日)、支部総会・父母懇談会を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンライン式での開催とし、33人の会員にご参加いただきました。

コロナ禍によりこの1年間はオンラインでの活動となりましたが、支部総会では本部および支部役員の方々の皆さまのご協力の下、大学の取り組みや学生の状況などの情報を可能な範囲で共有し、役員間の情報交換が行えたことを報告しました。

父母懇談会では、大学から岩崎晋也常務理事、後援会本部から吉川信宏顧問、事務局から関口広之進次長にオンラインでご出席いただきました。岩崎常務理事の講演では、質問も活発に出で、大学の取り組みに関する出席者の関心の高さがうかがえました。また支部情報交換会では、コロナ以前の支部活動の紹介と当時のエピソードを面白く説明していただき、有意義なものとなりました。

先の見通しが困難な時期ですが、無事に次の代へバトンを渡すことができ、大きな安心感でいっぱいです。これからも顧問として、微力ながら新運営役員を支えていきたいと思っております。

## 福岡県支部、香川県支部 合同父母懇談会



福岡県支部長  
梶木 由美子 (馨太 / 経済学部)

福岡県支部では8月21日(土)にオンライン式にて、香川県支部との合同父母懇談会を開催しました。

大学の平山喜雄常務理事のご講演では、コロナ禍による2020年度入学式中止からオンライン授業開始までのお話、そして現在の教室における感染症対策(50分ごとの換気、アクリル板・サーキュレーター)の設置、ハイフレックス型授業)について伺い、対面授業を受けられる環境が整えられていることを知りました。

コロナ禍でも、子どもたちが安心・安全な学生生活を送れていることに感謝いたします。ご出席いただきました平山常務理事、後援会関係者の皆さま、ICTサポート業者の皆さま、本当にありがとうございました。

これからも福岡県支部は「子どもの母校は我が母校」の合言葉の下、後援会本部と共に学生を支える仲間として活動してまいります。よろしくお願いたします。

※( )内は子どもの名前/学部

## 石川県支部30周年支部総会・ 父母懇談会を終えて



石川県支部長  
坂下 智弘 (彩音/法学部)

石川県支部では7月11日(日)、金沢ニューグランドホテルにて支部総会・父母懇談会を開催しました。当支部は、対面・オンライン併用式での開催となりました。総会は、準備した議案が全て承認され、滞りなく終了しました。

父母懇談会では、後援会の友利方彦会長よりごあいさつをいただき、廣瀬克哉総長からは石川県支部設立30周年記念講演として、総長と石川県の関わり、大学のコロナ対策への取り組みについてお話しいただき、親近感を持つ



て聴講させていただきました。またオンラインではありましたが、総長への質問にも分かりやすく丁寧にお答えいただき、有意義なひととき

となりまし  
た。

キャリア  
センターの  
取り組みも、  
就職活動を  
行う子を持  
つ親として  
とても分か  
りやすく、  
大変参考に  
なりまし



た。

新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、昨年来十分な後援会活動ができず、1年生・2年生保護者との交流が十分に行えていない状況下での支部総会・父母懇談会になったことが心残りです。

私は、後援会活動を通して、「子どもを法政大学に入学させてよかった。後援会活動に参加できてよかった」と思っています。皆さまにもそう思っていただけのような後援会であってほしいと願っています。

## 福島支部の幕を閉じ、 福島県支部の設立へ



福島支部長  
水野 賢一 (宏紀/法学部)

福島支部の総会は7月17日(土)、郡山市で開催しました。1966年4月に発足してから55年が経過しましたが、福島支部としての総会は今回が最後となりました。

近年の有名私立大学の難化や地元志向などの影響を受け、福島支部エリアから法政大学への入学者数の減少が続いたため、福島支部の将来像を議論する中で、隣接する郡山支部との合併を2年前から検討・協議してまいりました。



後援会本部のご支援を賜りながら、2020年末から調整を加速させ、合併に関する協議事項がまとまったため、福島支部を閉じることになりました。総会では、事業報告と決算報告に続き、郡山支部との合併を諮

り、全会一致で承認され、福島支部の55年の歴史に幕を閉じることになりました。非常に残念で、寂しいことですが、時代の流れかもしれません。

これまで、歴代の支部役員の皆さまは、大学、後援会本部との情報交換、支部会員同士の交流を精力的に行ってこられました。この場をお借りして、心から敬意を表したいと思います。

同日、郡山支部と合併し、福島県全域をカバーする「福島県支部設立総会」を開催し、会員数200人を超える県支部を発足しました。コロナ禍であっても、大学・後援会本部・会員のコミュニケーションを図りながら、「子どもの母校は我が母校」の合言葉を胸に、学生への支援、大学の発展に貢献していきたいと考えております。



## 常任参与と後援会運営委員との 懇談会報告



後援会総務  
滝沢 かおり (あかり/経営学部)

7月1日(木)、大学の常任参与と後援会運営委員との懇談会が開催されました。この会は、大学と後援会の意見交換や情報共有の場として毎年開催されています。

2020年はオンライン式での開催でしたが、2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止に細心の注意を払い、対面での開催となりました。

当日は廣瀬克哉総長のごあいさつで始まり、後援会の友利方彦会長のあいさつ、後援会の活動状況についての説明と続き、その後、参加者が自己紹介を行いました。

2022年度後援会助成金予算案については、多摩キャンパスのマイクロボス購入に充てる助成金の要望について、金田淳一多摩事務部長よりご説明をいただきました。

また、松井哲也法人統括本部長より、大学の現状や今後の授業対策、新型コロナウイルスワクチン接種の準備などについてご説明をいただきました。

さらに、2021年度の学生支援事業、就職活動の状況や支援について細



田泰博学生支援統括本部長よりご説明、ご報告をいただきました。今回の懇談会を通じて、大学と後援会の情報共有と連携の重要性を再認識しました。

後援会では、今後も大学との連携を密にし、学生が安心して学べる環境づくりを念頭においた支援活動を行ってまいります。最後となりますが、参加者の皆さま、開催にご協力いただいた皆さまに、この場をお借りし、心から感謝申し上げます。

### <事前申込・定員制>オンライン・電話による大学職員との個別相談のご案内

会員(保証人)向けに、大学職員による個別相談をオンライン(Zoom)・電話で実施します。申し込みは10月下旬より、後援会ウェブサイトの会員限定特設ページから行えます(下記のIDとパスワードの入力が必要です)。

#### ■ 学修に関する個別相談

対象: 全学年、全会員

実施日: 11月20日(土)・27日(土)

法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、グローバル教養学部

11月20日(土)

デザイン工学部、経済学部、社会学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部、理工学部、情報科学部、生命科学部

申込締め切り日: 11月7日(日)※締め切り厳守

#### ■ キャリア形成(就職活動)に関する個別相談

対象: 3年生以上の全員

実施日: 11月27日(土)、12月4日(土)

申込締め切り日: 11月7日(日)※締め切り厳守



個別相談の申し込みは  
会員限定特設ページより



後援会ウェブサイト 会員限定特設ページへアクセスしてください。

<https://www.hosei-koenkai.org/about/fomlist/>



HOSEIミュージアム  
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

# ミュージアム・サテライト小金井竣工記念 法政理工系のあゆみ(前編) 度重なる校舎移転のなかで発展

本学における理工系学部の歴史は、1944(昭和19)年4月、川崎・木月校地に創設された「航空工業専門学校」(航専)にさかのぼります。戦局の悪化に伴って、文系大学に理系への転換が求められ、理系専門学校を設立してこの国策に対応したのです。

本学が、当時の重要産業であった航空に焦点を絞ったのは、航空研究会の活動や、ANA設立に関わった校友の中野勝義が民間航空界に大きな影響力を持っていたことに加え、木月にあった通信省航空局航空試験所から資材や技術者の提供を受けられるという背景がありました。当初の定員は機体専修1000人、発動機専修2000人で、理系学生は召集が延期されるとあって志願者は10倍を超えました。ところが、敗戦によって日本で

の航空機の生産・研究が禁止されたため、航専は創立からわずか1年半で、機械科単科の「法政工業専門学校」(工専)に改組。さらに、文系の学生が戻ってきて木月校地が手狭となり、工専は1947年、電気通信科、建築科の増設と同時に千葉県習志野へ移転します。校舎は元陸軍騎兵学校の木造兵舎を改造した建物で、最寄り駅から4キロ以上歩く不便さもあり、学生集めに苦労し、さまざまな試みがなされました。その中で話題を呼んだのは中等学校放送討論会です。朝日新聞社の後援を得て、千葉県下の中等学校から参加者を集めた討論会は全国放送もされ、工専が富士見校地へ移転した後も、好評を得て1968年まで22回も続けられました。

その後1948年の学制改革に

より、工専の廃止を免れるには、大学の工学部への昇格が必要となり、1950年4月、富士見校地に移転し、工学部(機械工学科、電気工学科、建設工学科、経営工学科)が設置されます。初代学部長は、蒸気動力工学の権威として知られる加茂正雄でした。

そのわずか2年後、工学部は、大学が新たに得た港区麻布の校舎に移転します。狭く古い校舎でしたが、高度経済成長に向かう日本社会で理工系人材への期待が高まり、入学志願者は年々大幅増加を続けます。学生たちは自主的に「研究会」を立ち上げ、学生主体の「工学祭」も始まり、この時期を「学生諸君がその最も法政らしい活力を示した」と回顧する教員もいるほど活気ある時期でした。



(後編は11・12月号に掲載します)



2021年度秋学期テーマ展示  
「法政理工系のサステナビリティ研究」  
ミュージアム・サテライト小金井の開設を記念し、法政理工系の歩み、理工系4学部の最新研究を紹介。

場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階  
期間：2021年10月～2022年4月  
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト

新型コロナウイルス感染症の影響等により、日程や内容は変更になる可能性があります。詳しくは上記ウェブサイトをご確認ください。

- 1 元陸軍騎兵学校の木造兵舎を改造した千葉県習志野校舎(1940年代後半)
- 2 鉄筋コンクリート造り4階建ての麻布校舎(1950～1960年代)
- 3 工学祭パンフレットや実験レポートなど、麻布時代の工学部学生の生活を物語る資料(1950年代)

# 校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。

## 校友会で取り組む在学生支援

校友会では、大学・学生への支援を目的に、卒業生に寄付のご協力を広く呼び掛けています。

現在展開している募金事業には、次のようなものがあります。

- ・ 一般社団法人法政大学校友会奨学金
- ・ 地方共創プログラム募金
- ・ 箱根駅伝応援募金
- ・ 「箱根駅伝応援募金」と「駅伝チーム応援キャンペーン」の実施

このうち「箱根駅伝応援募金」は、陸上競技部駅伝チームの活動を支援するために、2018年度から募金へのご協力をお願いしているもので、頂いたご寄付は駅伝チームの合宿費や治療費、栄養費の補助などに活用させていただいています。

2021年度秋のシーズンに駅伝チームが出場する主な大会は、10月23日(土)の東京箱根間往復大学駅伝競走(以下、箱根駅伝)予選会と11月7日(日)の全日本大学駅伝対校選手権大会です。

そこで、「予選会突破と全日本大学駅伝での活躍を応援しよう!」をキャッチフレーズに掲げ、箱根駅伝応援募金の実

施に併せて「駅伝チーム応援キャンペーン」を実施中です。

駅伝チームのメンバーは、冬の駅伝シーズンだけではなく、一年を通じて練習に励んでいます。「駅伝チーム応援キャンペーン」の期間(8月1日～11月7日)中は、週に1回、校友会ウェブサイトと公式Facebookで、次のような駅伝チームの様子や活動状況に関する情報を配信します。

- ・ 各種大会や強化合宿の日程、活動スケジュール
- ・ 夏季強化合宿の練習メニューや練習風景の写真
- ・ 駅伝チームメンバーからの、合宿や予選会に向けた意気込み
- ・ キャンペーンの詳細や寄付のお申し込み方法については、校友会ウェブサイトをご覧ください。

在学生、保護者の皆さんも、日々練習を重ねている駅伝チームの状況をぜひご覧ください。最新ニュースだけでなく、過去に配信したのも掲載しています。ご声援・ご協力をよろしくお願いいたします。

「駅伝チーム応援キャンペーン」実施中  
予選会突破と全日本大学駅伝での活躍を応援しよう!

8月1日  
～  
11月7日

皆さまのご声援・ご支援を  
よろしくお願いいたします!



夏季強化合宿の練習風景



校友会  
公式ウェブサイト



校友会  
公式Facebook

## サッカー部が「2021年度第45回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」で優勝



(写真提供:サッカー部)

8月23日(月)から9月5日(日)にかけて「2021年度第45回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」が開催されました。東洋大学との決勝戦は、前半を1-1の同点で折り返す白熱の接戦となり、後半のアドレナショナルタイムに佐藤大樹選手(経済学部4年)がフリーキックを直接決め、逆転優勝を果たしました。サッカー部の優勝は、4大会ぶり5度目となります。

## 法政大学関係者の東京オリンピック・パラリンピック出場情報

2021年7月から開催された東京オリンピック・パラリンピックにて、陸上400mハードルに出場した黒川和樹選手(現代福祉学部2年)をはじめ、多くの卒業生、教員など法政大学関係者が参加しました。

大会前には、出場者壮行会を開催。感染予防対策のためオンラインにて参加した出場選手に向けて、総長はじめ後援会会長、校友会会長などの来賓の皆さま、さらに応援団から熱いエールが送られました。



東京オリンピック・パラリンピックに出場した法政大学関係者

## 東京オリンピック2020大会卒業生の見延和靖選手がフェンシング・エベ団体で金メダルを獲得

7月30日(金)、東京オリンピック2020大会のフェンシング・エベ団体において、日本チームが日本フェンシング史上初となる金メダルを獲得。本学卒業生の見延和靖選手(2010年度法学部卒)はキャプテンとしてチームをけん引し、金メダル獲得に貢献しました。

9月7日(火)には、フェンシング部の関係者と共に総長を表敬訪問して、戦績を報告。見延選手は「エベは日本人の体格上勝ちにくい種目ともいわれているが、チャレンジ精神をもって挑みました」と語りました。



(写真提供:見延和靖選手)

## 「法政大学大学院」を紹介する動画を公開

社会に開かれた大学院である法政大学大学院。どのような環境で学びを深めているのか、興味を持つ人のために大学院について紹介する動画を作成、公開しました。

この動画では、「多彩な研究科・専攻」「幅広い人材の受け入れ」「学費・助成制度」「学びの特性に合った3つのキャンパス」という4つのポイントを中心に解説しています。



動画はこちら

## 「数理・データサイエンス・AIプログラム(MDAP)」と「データサイエンスセンター(DSC)」開設記念講演を開催

2021年9月より「法政大学数理・データサイエンス・AIプログラム(MDAP: Mathematics, Data science and AI Program)」を開講しました。データサイエンスやAI(人工知能)を活用して新しい価値を創造できる人材、持続可能な社会の構築に寄与できる人材を育成することを目的とした全学部共通のプログラムです。

また、MDAP教育の質の保証と、本学の目指す「大学と社会をつなぐ実践知教育」を推進するために「法政大学データサイエンスセンター(DSC)」を開設しました。

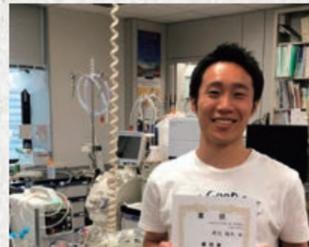
これを記念して、9月22日(水)に記念イベントをオンライン開催。情報化の進んだ現代社会では、ビッグデータの活用やAI技術により、産業界がどのように変化していくのかを知る機会にもなりました。



## 理工学研究科の学生が「第36回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会優秀賞」を受賞

理工学研究科応用化学専攻に在籍する渡辺誠也さん(修士課程2年)が「第36回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会優秀賞」を受賞しました。

日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会は、高性能透析膜の使用と臨床効果に関する調査研究と次世代人工腎臓のためのシステムと関連諸機器の開発などを推進する研究会で、渡辺さんが書いた論文「I-HDF療法における間歇的な逆濾過補充が溶質除去性能の回復効果に与える影響」が「優秀賞」に値すると評価されました。渡辺さんは前回(2019年開催)に続いて、2回目の受賞となります。



## 台風や大雪などにより交通機関が不通になった場合の授業の取り扱いを変更します

2021年度秋学期より、天候悪化などで交通機関に大きな乱れが生じるなど、通学に危険が生じる場合の措置について、一部変更します。

■休講措置などのお知らせは、[法政ポータルサイト Hoppii](#)「大学からのお知らせ」にて行います。

■休講措置がとられた場合でも、オンライン授業は予定どおり実施されます。対面授業・ハイフレックス授業は、オンラインに切り替えて実施する場合があります。この場合、授業担当教員が学習支援システムにて周知しますので、確認してください。



緊急時の対応

## 課外教養プログラム「アイデア実現の力がつくワークショップ」を開催

9月7日(火)、学生センター主催の課外教養プログラムとして「アイデア実現の力がつくワークショップ」を、オンライン開催しました。プログラム前半では講義形式で「ワークショップとは何か」、「アイデアを実現するための発想過程」、「人と人がコミュニケーションをとるうえで大切なこと」などをテーマとした内容を受講しました。後半は、講義で学んだ内容を基に、「オンライン授業をもっと楽しくするには」というテーマのワークショップを体験しました。受講した学生は、積極的に議論を交わし、和気あいあいと交流を楽しみました。



## 日中協働リーダー育成プロジェクトで本学学生らが全国優勝

日本青年会議所(JCI)が企画する「日中協働リーダー育成プロジェクト」では、日中の未来を担うリーダーを育成するため、全国5都市(横浜、金沢、名古屋、京都、高松)にて活動を展開。日本大学生と中国人留学生の混合グループごとに「SDGs関連課題を解決するためのアクションプラン」を作成しました。葛西洋洲さん(現代福祉学部3年)と山形瑞希さん(国際文化学部3年)は、他大生らと共に横浜代表としてSDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」に関連した「リチウムイオン電池のリサイクル促進プラン」を提案するプレゼンテーションを行い、見事全国優勝を果たしました。



## 自然災害により被災された学生および保護者の皆さまへ

2021年4月以降、自然災害に伴う災害救助法適用地域およびその近隣地域で被災された方、または家計支持者が同地域に勤務し勤務先が被災された方で、学業に支障のある方は各キャンパスの問い合わせ先にお申し出ください。

【お問い合わせ先】

(市ヶ谷)学生センター厚生課 TEL:03-3264-9486  
(多摩)学生センター多摩学生生活課 TEL:042-783-2151  
(小金井)学生センター小金井学生生活課 TEL:042-387-6042  
また、被災地域の在学中で、通学困難など学修活動に影響が生じている方は、所属学部窓口までご相談ください。

## 日本学生支援機構奨学金の返還手続きに関するお知らせ

2022年3月に日本学生支援機構奨学金の貸与が終了する学部4年生および大学院生には、各キャンパスの学生センター奨学金担当から、返還手続きに関する書類を郵送で配布します。受領後、金融機関で口座振替の手続きをしてください。HoppiiのWeb掲示板でもお知らせします。

なお、卒業後に返還が困難な場合には、「減額返還制度」や「返還期限猶予制度」があります。

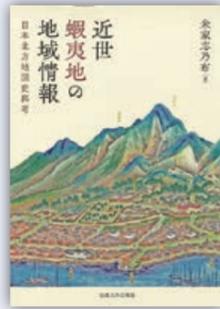
## 4大学合同オンライン交流会を開催



9月3日(金)、「夏企画4大学合同交流会」をオンライン開催しました。ウェブ会議ツールを介して釜山外国語大学(韓国)、日越大学(ベトナム)、天津外国語大学(中国)と法政大学の4カ国の大学生が集まり、各国の夏祭りや夏の風物詩についてのおしゃべりや、参加型のクイズを楽しみました。

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

# BOOKS



## 近世蝦夷地の地域情報 日本北方地図史再考

アイヌ民族の生活の場であった蝦夷地は、江戸幕府による支配以降、明治政府による開拓・植民政策の開始に至るまで、さまざまな地図や測量図、風景絵図に描かれ表象されてきた。「異域」であった北海道周辺地域の情報はどのように収集・把握され、一般の人々にも「国土」の一部として認識されるようになったのか。日本の北方地図史の展開をたどる。

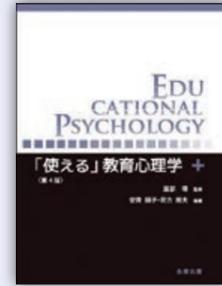
米家 志乃布 著  
文学部地理学科 教授  
出版社：法政大学出版局  
発行：2021年5月



## ダニが刺したら 穴2つは本当か？

人に危害を加えるダニはもちろん、チーズを熟成するダニ、人には無害で森の中で分解者として暮らすダニなど、世界に5万種を数えるダニの多様性を知ることができる本。巻頭掲載の「細密画で見る美しい日本のダニ」、各章末の「走査型電子顕微鏡写真で見る知られざるダニの姿」、付録の「ダニとその仲間たちの進化の足跡」など、ビジュアルや補足情報も充実している。

島野 智之 著  
国際文化学部国際文化学科 教授  
出版社：風濤社  
発行：2021年6月



## 「使える」教育心理学

発達、教育、学習など教育心理学の基礎的事項を取り上げ、重要な事項を分かりやすく解説した入門書。カウンセリングや特別支援教育など、学校での心理教育的援助と関連事項について、具体例を挙げながら解説している。第4版にあたり最新情報、データを豊富に盛り込んでいる。

服部 環 監修 他2名 編著  
現代福祉学部臨床心理学科 教授  
出版社：北樹出版  
発行：2021年4月



## 考える力を高める キャリアデザイン入門 なぜ大学で学ぶのか

大学1年生向けに、働くことの社会的意味や大学の学びとの関わりを説きながら、キャリアとキャリアデザインを解説した入門書。キャリア教育と専門教育を結び付けることで、専門課程に意欲的に取り組むことも含めて、大学4年間を有意義に過ごすためのヒントが得られるテキスト。

藤村 博之 編著  
専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授  
出版社：有斐閣  
発行：2021年4月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

## HOSEI 10月号

令和3年10月20日発行  
第48巻第7号（通巻726号）

発行 法政大学 総長室 広報課  
〒102-8160  
東京都千代田区富士見2-17-1  
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷株



## 法政大学生活協同組合書籍部より

<小金井キャンパス>

### 理系向けの品ぞろえを心掛けて

2021年度も引き続き、オンライン授業と対面授業のハイブリッド型となり、大学での新しい学びのスタイルが確立されつつあるように感じます。

書籍においてもコロナ禍で巣ごもり時期に簡単に手にできる電子書籍の便利さにお世話になった方も多いと思います。「読みたい!」と思った瞬間に購入、読み始めることができるという点はとても便利です。その一方で、リアルな書店での書籍との偶然の出会い、これはオンラインでは体験できないと、日々書店に立ち寄った際に思い知らされます。

小金井購買書籍部では、理系の学生さんにぜひ読んでほしい、知ってほしい書籍を定番・新刊含め多くそろえるよう心掛けています。「何か面白いものあるかな?」の好奇心に答えられるよう、立ち寄りがいのあるお店づくりに努めてまいりますので、対面授業でキャンパスにお越しの際は、ふらっと立ち寄りいただければ幸いです。(小金井購買書籍部)



■ Award

2020年度

自由を生き抜く実践知大賞 5

2020年度「自由を生き抜く実践知大賞」には大学憲章を体現するような実践の取り組みとして10件がノミネート。厳正な審査にて、大賞と大学憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞、オンライン投票による「よき師よき友が選ぶ実践知賞」の計6賞が選ばれました。ここでは、それぞれの受賞の取り組みを順に紹介します。

## 自立した市民賞

# 「法政オレンジコミュニティ (HOC)」 (実践主体：法政大学校友会)



## ノミネート理由・活動概要

法政オレンジコミュニティ (HOC) は、法政大学を卒業または修了した学生が2年以上勤務した教職員が会員になることができるOB・OGコミュニティです。卒業後も生涯にわたり母校とのつながりを実感できるように、一般社団法人法政大学校友会が運営しています。現在、在籍している会員数は約5万2000人。2014年3月(2013年度)以降の卒業生は、卒業後自動的に会員となり「年度同期会」に所属しています(年度同期会は5年で解消)。

私立大学における日本一の卒業生組織にすることを目標に、3段階に分けて、年代別に認知度拡大を図り、最終的には全ての年代を網羅した「オール法政ネットワークの構築」を目指しています。

これまでの活動実績としては「HOSEI Casual Party」「異業種・同業種交流会 @お台場」「ゴルフ部員によるゴルフ教室」などのイベントを実施。2020年2月以降はオンラインイベントを実施。コロナ禍で各種イベントが延期、中止となっている状況だからこそ、母校との関わりを実感してもらおうと思っています。

他にも、卒業生が卒業生を紹介し、リレー形式でつながりながら、さまざまなフィールドで活躍する卒業生を紹介したり、パートナー組織と連携して、全国・世界各地の地域/パートナー組織/卒業生/卒業生のお店を紹介したりする情報発信、法政オレンジMAP作成、HOCグッズの制作・販売などを行っています。



「孤独のグルメ」原作者 久住昌之氏(本学社会学部卒業生)によるイベントでの写真

## 田中前総長\*からの選定理由コメント

若い世代の卒業生たちがコロナ禍だからこそこの企画を立て、オンライン交流会やオンラインセミナーを実施し、卒業生たちが集まるきっかけを作りました。さらに長期ビジョンをまとめ、プログラムを可視化して、さまざまなアイデアを集積できる仕組みも作っています。これは今後の卒業生組織の大きな展開につながる取り組みです。卒業生たちは憲章にある「自立した市民」として世に出て、活躍している人々。その意味をこめて「自立した市民賞」とします。

## 受賞者からの感想

今回の受賞は、卒業生の活躍を在学生や保護者、教職員、他の卒業生に知ってもらう良い機会となりました。法政オレンジコミュニティは、卒業後も母校と関わることができるコミュニティです。コロナ禍において、働き方や生活に変化があった方も多いと思います。社会の在り方が大きく変わる中で、法政大学校友会は、卒業後もこのコミュニティを通じて支援を継続して行います。ぜひご参加ください。お待ちしております。(法政大学校友会事務局/青年部会長 半田 朋之)

## 今後の展望

校友会は、長い歴史の中で、卒業生のコミュニティ形成に主眼を置いて取り組んできました。全国各地の地域校友会、海外団体、学部・付属校同窓会、職域や卒業生団体など、多数のコミュニティがあります。さらに、法政オレンジコミュニティの発足により、若手卒業生も参加するようになり、オール法政ネットワーク構築に向けて拡大を続けています。

今後は、校友会憲章に掲げているとおり「持続可能な社会を実現するために、価値の創造・提供を行う」ことに取り組んでまいります。具体的には、社会の最前線で活躍する卒業生に協力を仰ぎ、「キャリアヒストリー」や「業界の最新の情報」を発信するといった企画を積極的に行っていく予定です。今後も校友会の活動にご期待ください。

\*田中優子総長は2021年3月にて任期満了により退任しました。

「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画は、HOSEI PHRONESIS(<http://phronesis.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。





法政大学 在学生と保護者の皆さまへ

学研災付帯学総

加入していますか？

2021年度用

中途加入のご案内

団体割引  
30%適用



# 法政大学 学生保険

学生教育研究災害傷害保険付帯 学生生活総合保険 略称:付帯学総

法政大学がおすすめする保険制度です。是非ご加入ください。

病気もケガも  
通院1日目から補償

ここが  
Point

- けぜによる通院でも1日目から対象
- 調剤薬局で処方された薬代金も対象



©東京海上日動

保険金お支払い例

治療費用(病気): 発熱のため通院した。  
…お支払い保険金: **3,860円**

治療費用(ケガ): 学校行事の準備中、  
右足親指を強打し負傷した。  
…お支払い保険金: **12,220円**

個人賠償責任  
示談交渉サービス付

- インターンシップやアルバイト中も補償の対象となります!

● 自転車条例に対応!!

保険金お支払い例

個人賠償責任: 自転車で、停車中の車に追突した。  
…お支払い保険金: **100,954円**



©東京海上日動

メディカルアシスト 自動セット

一人暮らしの学生も安心です!!  
お電話にて各種医療に関する相談に応じます。

お手続きは、  
便利で簡単!

法政大学 学生保険  
Web加入サイト



・サイトのご利用時間は8:00~22:00です。  
・保険料はコンビニでお支払!(24時間OK!)

申込  
締切

2021年 **11月30日(火)**

※締切を過ぎた場合は取扱代理店までお問い合わせください。

ご加入について

在学中であればいつでもどなたでもご加入できます!

このチラシは保険の特徴を説明したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。  
パンフレット等の資料請求、ご加入方法および保険料については、下記取扱代理店までお気軽にご連絡ください。

取扱代理店

●お問い合わせ・連絡先  
<幹事代理店>  
株式会社 法政保険プラザ  
(法政大学関連会社 損害保険代理店)

(東京海上日動あんしんコンサルティング(株)内)

学生生活総合保険相談デスク

☎ 0120-811-806

受付時間 9:30-17:00 (土日祝日を除く) \*Webはこちら⇒



引受保険会社

<引受幹事保険会社>  
東京海上日動火災保険株式会社 公務第二部文教公務室  
〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL: 03-3515-4133